第二一二号荒鷲（あらわし）

作品

福岡大学学術文化部会書道部

巻頭詩

何もかも信じられなくなり
投げ出してしまいそうになる時も
悲しみも明日の笑顔に変える
しなやかな強さ持ち続けたい

ただなにげなく生きてるだけじゃ
見えない大事なこと
大切なのは変わらないこと
変わって行けること

信じることをあきらめないで
だめな自分をそんなに責めないで
信じることをためらわないで
明日はとびきりの朝をくれるから

「愛する勇気」谷村有美より

＜第三十二代基本方針＞

我々書道部は、これまで先輩方が築き上げられた良き伝統を深く見つめ直し、部を飛躍させ、練習・行事及び一般諸活動に意欲的・積極的に取り組んでいく中で部員相互の親睦融和を図り、書技を向上させると共に人間形成を目指す。又、対外的にもアピールを行うことで活動に幅を持たせ部をより活気あふれるものとする。

＜第三十三号「荒鷲」発刊にあたって＞

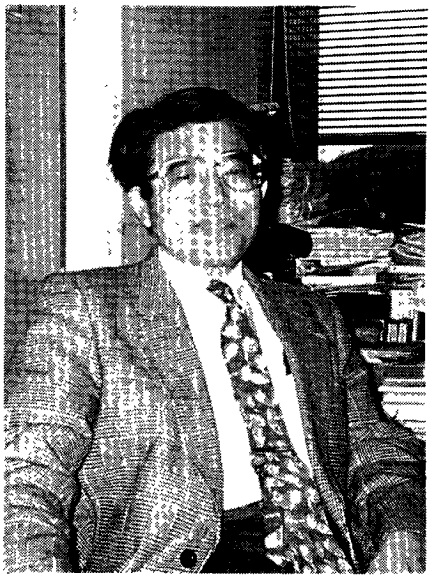
この度、我が部の機関誌であります「荒鷲」が発刊できますことは誠に喜ばしいことであります。

書道部は、昭和三十五年創部以来、現在に至るまでに著しい発展を遂げております。諸先輩方が築いてこられました、この良き伝統を継承し、現代に即した運営を行い、更なる発展へとつなげることが我々現役部員の使命であると考えます。

最後になりましたが「荒鷲」第三十三号発刊に際し、多大なる御尽力を賜りました諸先輩方、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

第三十二代幹事　大倉　隆雄

福岡大学書道部講師
赤木　石掃



福岡大学書道部部長
小西　高弘

福岡大学書道部第３２代幹事
大倉　隆雄

福岡大学書道部書心会会長
柴田　一夫

目次（もくじ）

巻頭詩 …… 一
発刊にあたって …… 二
目次 …… 四
七隈祭展示会作品 …… 五
特別寄稿 二〇
道楽者　講師　赤木　石掃 …… 二一
散文　わが夏の夢　書道部部長　小西　高弘 …… 二一
友　書心会会長　柴田　一夫 …… 二一
模擬役員会　昭和五十一年度卒　山村　昌次 …… 二二
精神的な成長を……　常任幹事会幹事長　河村　治尚 …… 二三
連盟について思うこと　福岡教育大学　大内田　優 …… 二三
部員寄稿 …… 二四
自由投稿 …… 二五
テーマ原稿
●仲間 …… 三六
●輝くとき …… 四〇
●信・正・美 …… 四二
釘嶋美佐緒さんを追悼して…　第三十二代幹事　大倉隆雄 …… 四四
年間行事 …… 四五
クリスマスパーティー　二年　松元　恵美 …… 四六
追い出しコンパ　三年　中村　友理子 …… 四六
春季合宿　四年　川波　久美子 …… 四七
新入生歓迎コンパ　一年　溝部　裕之 …… 四七
学内展　一年　植本　豊 …… 四八
夏季合宿　二年　野口　益記 …… 四八
七隈祭　一年　山本　浩司 …… 四九
西日本高等学校揮毫大会　一年　松元　祐二 …… 四九
三年　佐々木　智子 …… 五〇
ソフトボール大会　四年　牧　利弥 …… 五一
福岡市教育委員会賞に入賞して　山本　哲治 …… 五二
一年間を振り返って …… 五二
福岡大学学術文化部会書道部部規約 …… 五三
福岡大学書道部書心会規約 …… 五五
部員名簿 …… 六〇
書心会名簿 …… 六四
平成四年度役員名簿 …… 八〇
編集後記 …… 八二

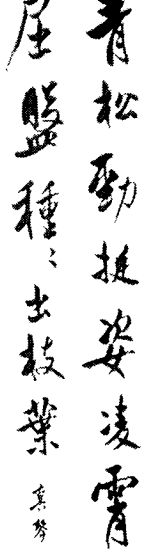
七隅祭

展示會作品

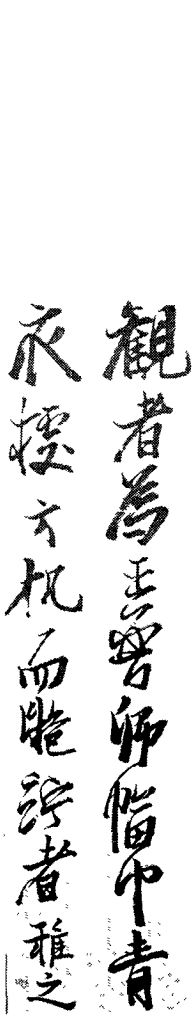
テーマ『墨気』

期日：十月三十一日～十一月三日

場所：有朋会館《女子ラウンジ》

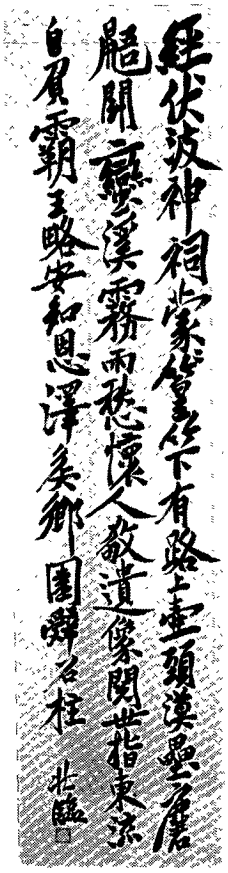


商学部　一年　河原真

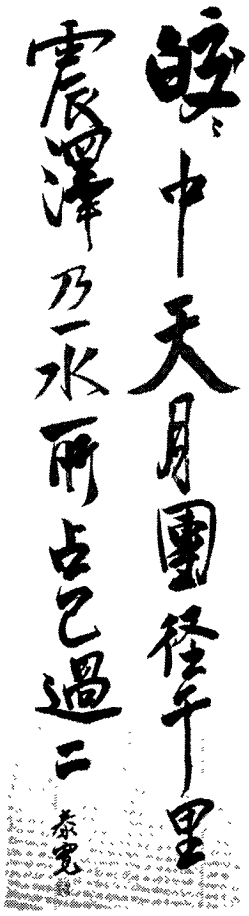


法学部　一年　熊野雅之

法学部　一年　松元祐二

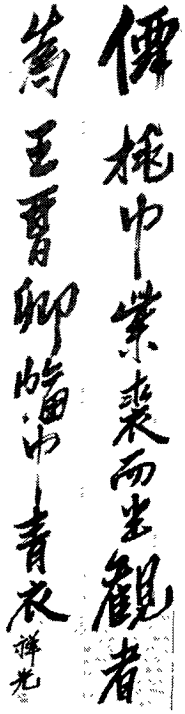


工学部　一年　久保壮

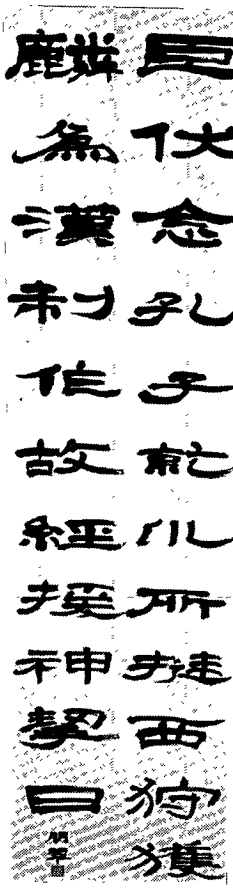


法学部　一年　立石泰寛

理学部　一年　植本豊

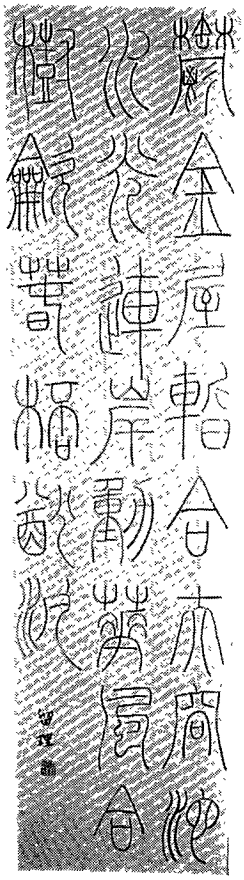


理学部　一年　川中祥光

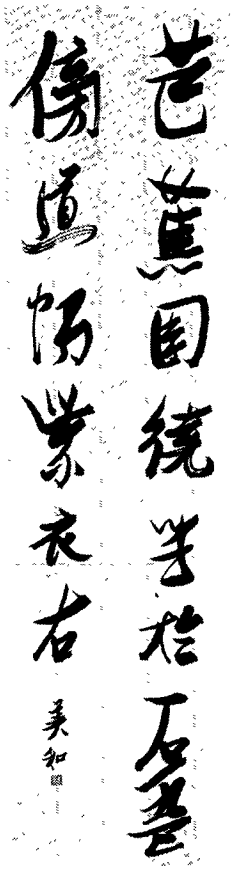


人文学部　一年　牧本朋子

工学部　一年　古瀬徳明



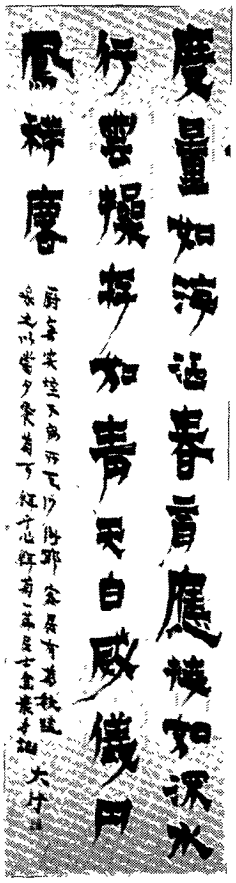
人文学部　一年　池田留理子



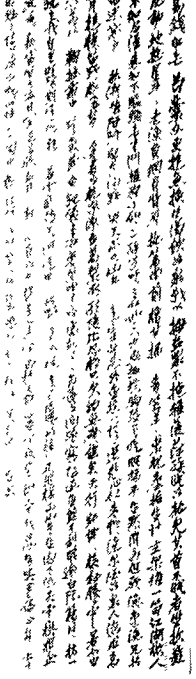
法学部　一年　太田美和

法学部　一年　片寄広

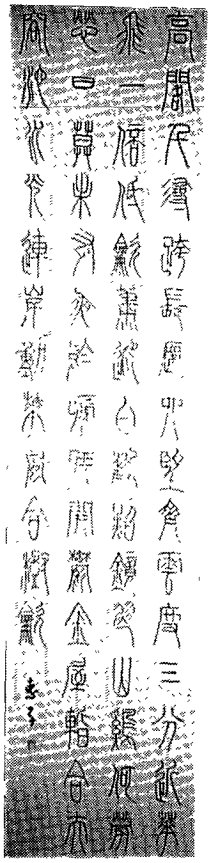
法学部　一年　山本浩司



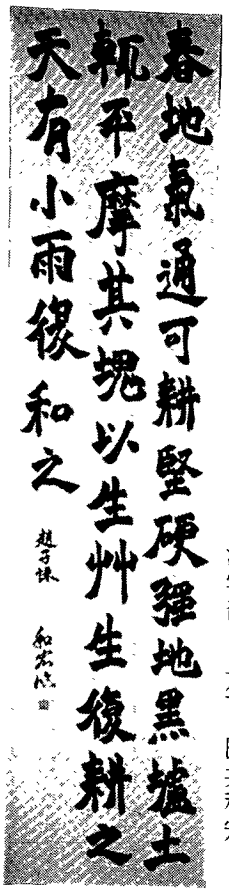
法学部　二年　工藤大行



法学部　二年　吉田啓子



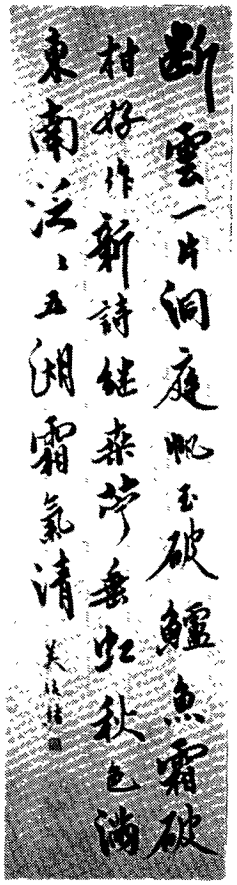
人文学部　二年　鶴田恵子



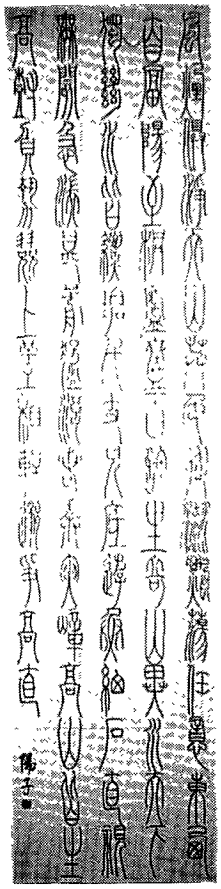
法学部　二年　臼井和宏

工学部　二年　森山清二

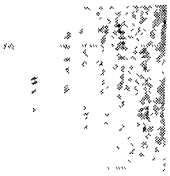
人文学部　二年　島幸輝



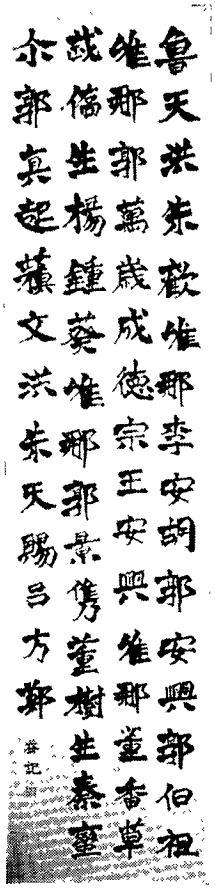
法学部　二年　釘嶋美佐緒



人文学部　二年　真庭陽子



工学部　２年　高良俊彦

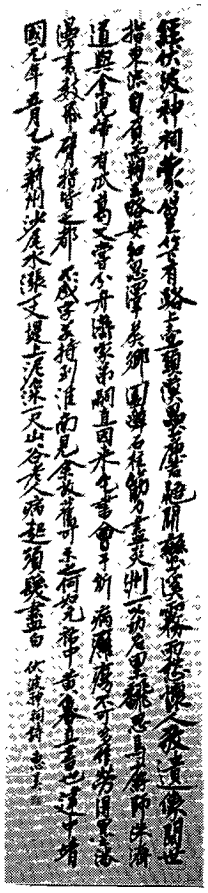


法学部　二年　野口益記

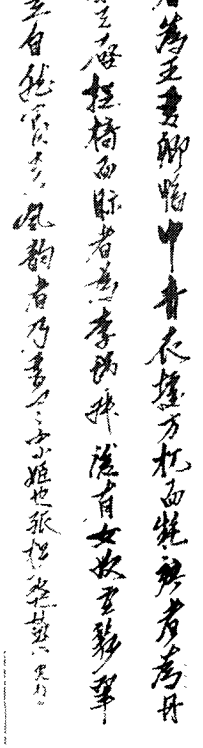
商学部　二年　安武淳

商学部　二年　山本哲治

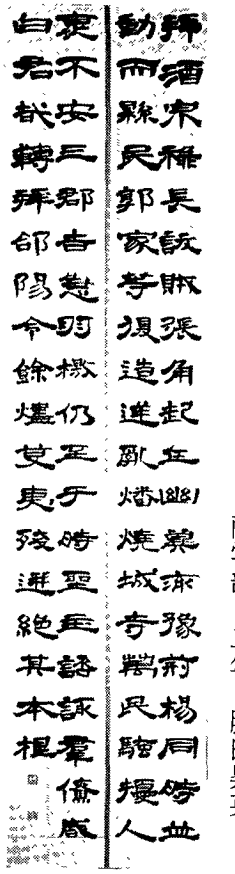
人文学部　二年　松元恵美

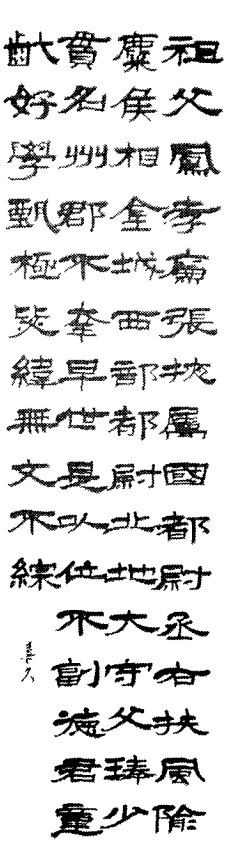


経済学部　二年　中江寛行

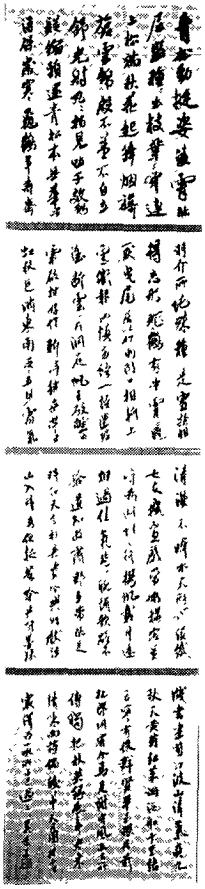


商学部　二年　脇田昇英

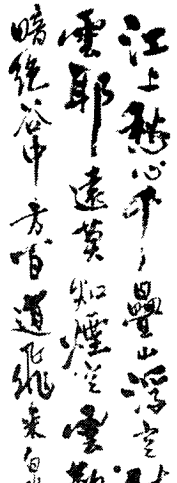




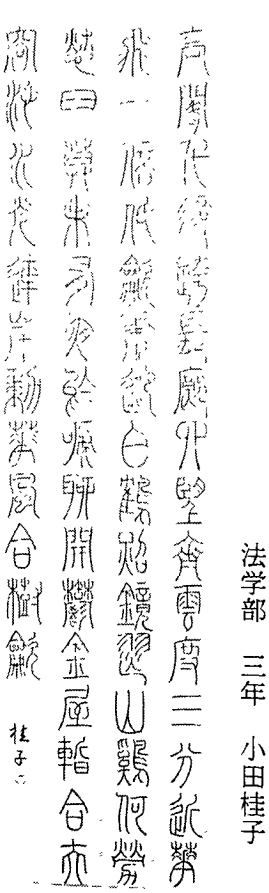
法学部　三年　坂井喜久代



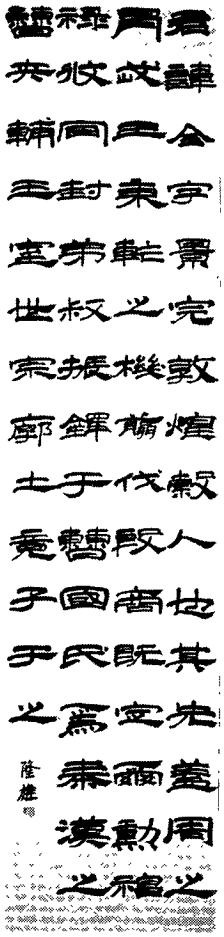
法学部　三年　亀元美奈子



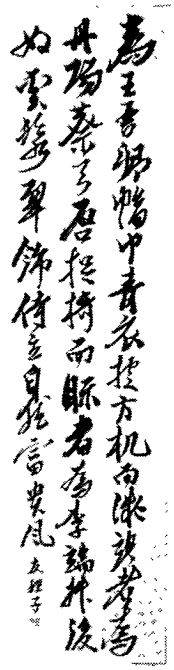
経済学部　三年　中山美津子



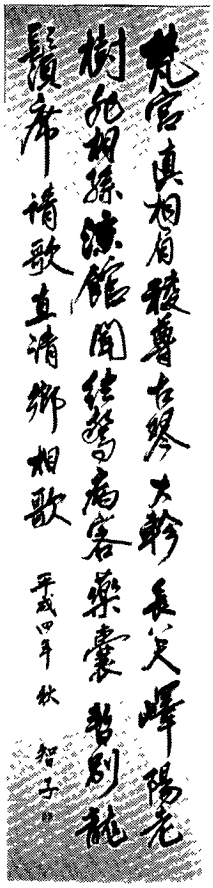
法学部　三年　小田桂子



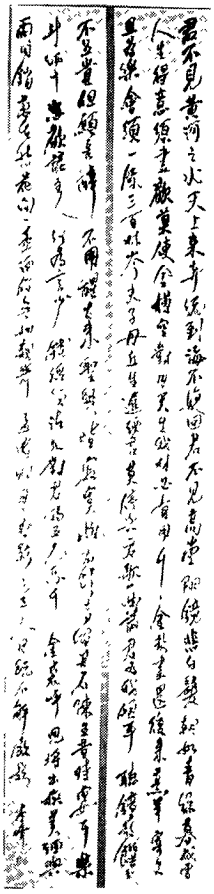
法学部　三年　大倉隆雄



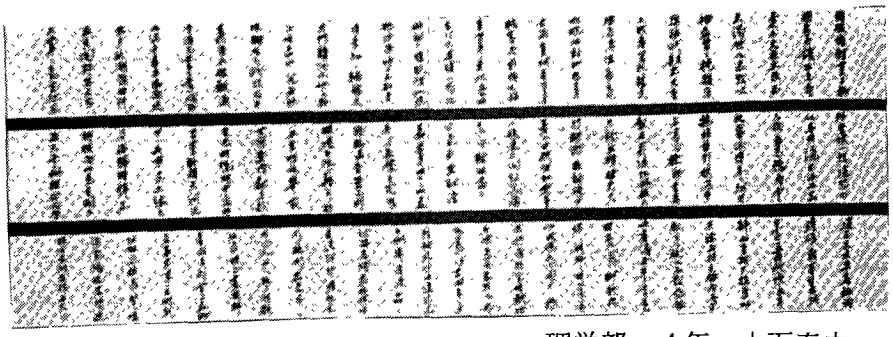
法学部　三年　中村友理子



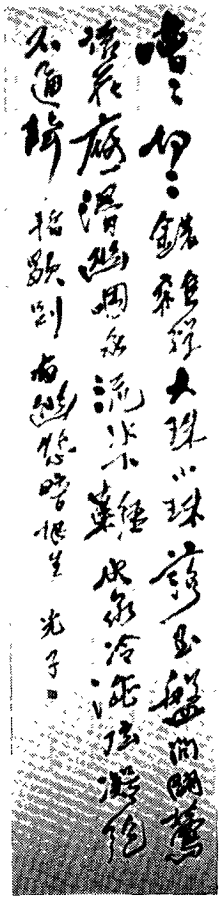
法学部　三年　佐々木智子



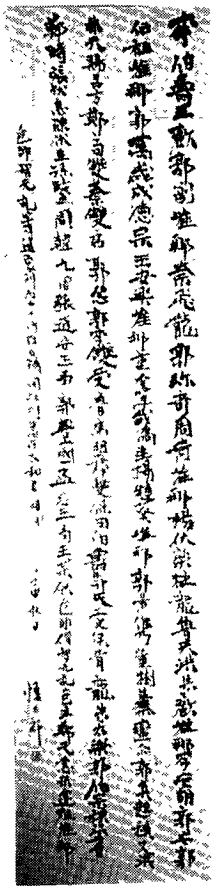
法学部　四年　中村博



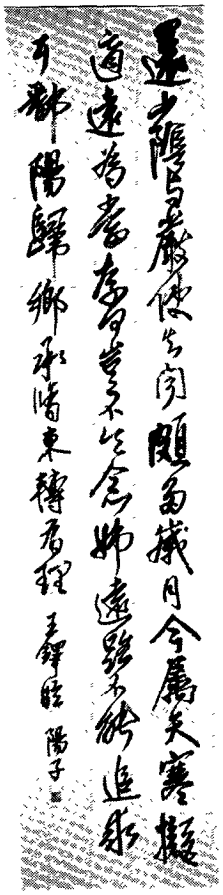
理学部　4年　山下泰史



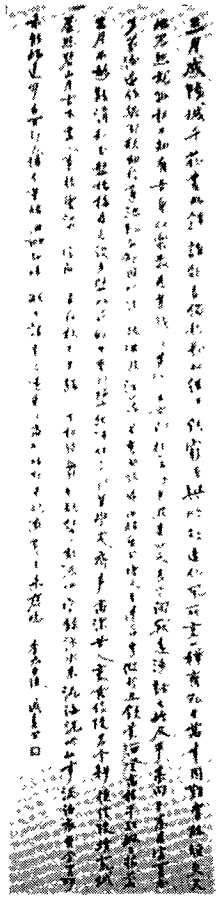
商学部　四年　平田光子



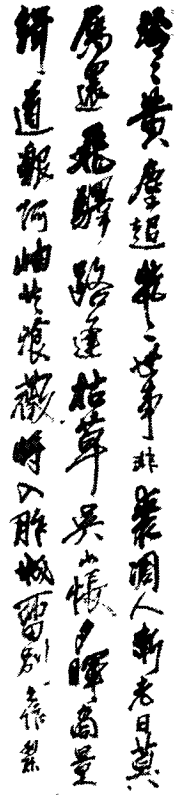
工学部　四年　原田慎太郎



法学部　四年　山村陽子



法学部　四年　立石成美

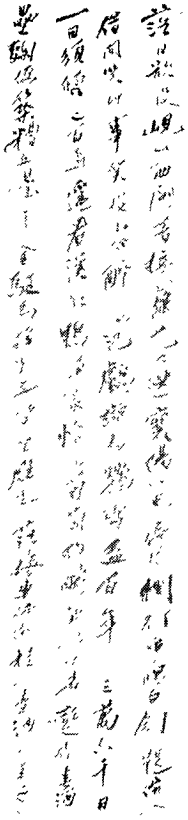


理学部　四年　牧利弥

経済学部　四年　渡辺太郎

商学部　四年　福島幸治

経済学部　四年　服部大介



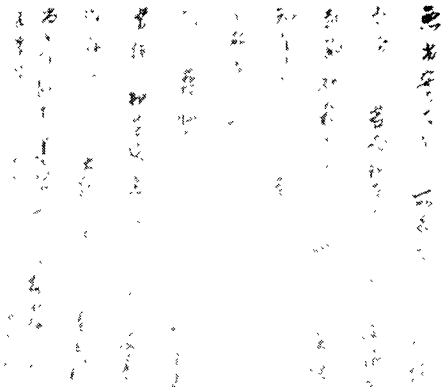
法学部　四年　川波久美子

経済学部　四年　安永格

賛助作品

講師　赤木石掃

平成三年度卒業
原口磨美



昭和五十八年度卒業　満生憲親

昭和４３年度卒業　平井晴彦

昭和五十一年度卒業　荒尾記史朗

素人撮影にて、写りにムラのあることを御了承ください。

特別寄稿

とくべつきこう

れてゆくことでしょう。
だから私の書道は道楽。世の中に美しいものは沢山あります。書

＜特別寄稿＞
道楽者

講師　赤木　石掃

私は　土台道楽者のようです。日本語大辞典（講談社）には道楽＝本職以外のことにふけって楽しむこと。とある。もう一つは「道楽息子」と言う風に、息子たる本職？を忘れて悪い遊びにふける放蕩息子を意味することもあるようです。まあそんなことは、どうでもいい。私は本職以外を随分楽しんできた方でしょう。それもいろいろあって第一が書道、次にステレオ。次が車かな。最後が犬をつれての鉄砲うちと言うところ。では本職とは何だったか。私は明らかに保健体育科の高校教師でした。だから学校も小学校を出て、旧制の師範学校と言う七年制の外地（今の日本を内地と言い台湾朝鮮等を外地と言った）の小学校の先生になる学校を出たのです。高校の先生になるには次の学校、今の筑波大学（旧制では東京教育大学の前身東京高等師範学校）の体育科四年を出たことになって、高校教師を昭和二十二年の二十四才から五十七年（五十九才）迄、マジメに勤めました。これが私の本職に間違いありません。だからステレオも、書道も、レッキとした道楽に間違いありません。ステレオも専門誌に何度も掲載されたから福岡一？にしておこう。車の方はバイクで一一〇〇CCを七十才になる来年迄乗れば、排気量と年令を乗ずればコレも福岡一？。書道がどうみても、福岡一になる要素がない。あえて言うなら、例えば県展入選者が丁度三十名、福岡市展入選者が九十四名（何れも平成三年度）位、のものでしょうか。つまり私と一緒に書道の勉強をしている生徒さんが、県展と、福岡市展に入選した数で実証してみせて、福岡一？だと言う以外に、書道は何もない。然し、この中で自慢できる事が一つあります。

出品者の手本を書かない。書かなかった。

と言うことです。

書道の勉強は、先生の字を教える。先生の字を習う。と言う風に一般の人は思っています。私は私の字は習うな。私の字は教えない。

と言います。では何を教え何を習うのか。勿論それは皆さん御存知のように、古典を教え、古典を習うわけです。口で言うことは簡単ですが入選者に一人も手本を書いてないと言う実績を作りあげることは、むづかしいことです。これを実行している指導者が福岡に私以外、居るでしょうか？書道の指導者は自分の字を手本だとしてこれを売って本職と考えて居れば、今に日本の書道は本道からはづれてゆくことでしょう。

だから私の書道は道楽。世の中に美しいものは沢山あります。書道家が書道以外の美しいもの、例えば音楽だとかバイク？？だとか色々他の美しいものに着目して生きて行くようになったら、自分の字を習わせないで古典の美しさを教えることになるでしょう。

どうも道楽者の考えていることは、「ナットラン」と言う世の中かも知れない。

散文　わが夏の夢

書道部部長　小西　高弘

私は夢を見ました。正夢ともしらぬ夢をみました。福大の女子学生比は数年前まで１０％代であった。ところが今は、２５％を越える勢は何を物語るのであろうか。

学園内の華やかさばかりでなく、佐藤恵さんを初めとする女子学生のめざましい活躍は福大の将来に大いなる期待をうかがわせるものであろう。

大学の本質である学問にも、福大生が挑戦しつつある今日、東の早大、慶大に匹敵する西の福大が太陽の如く東の空に登るであろう。

朝の太陽はまぶしく、中空の太陽はきらぎらと、夕暮の太陽は美しい。福大をまぶしい、きらぎらとした、美しい大学に育てようではないか。　書道部の学生よ、己の人生に自信と誇りをもって前進しようではないか。前進する意欲と協同する心があれば己を強くし、まぶしく、きらぎらとした、美しい人生がやってこよう。心に太陽をもって青春の夢を語ろうではないか。

わが青春は、はるか空のかなたに消えようとしているが、しかし、青春はあたかも昨日の出来事の如く、わが心の中をかけめぐる。それは苦しい時も、楽しい時も、哀しい時も、うれしい時も、美しい思い出となってわれに語りかけてくるのである。

ああ青春よ、友よ、大学よ、

夢をありがとう。

友

書心会会長　柴田　一夫

人は字の如く一人では生きてはいけない動物であり、お互いに支え

あってこそ初めて人として生きて行けるものであります。
人と人が拡大して人の輪、人の集団が出来、気の合った仲間が親しい友人へと発展していくのであろう。
広辞苑によれば『友』とは①常に親しく交わる仲間。また、志を同じくする人。②同じ集団に属する者。とあります。
私は、常々「友」を宝と思っております。金銭で繋がった親戚知人よりも、精神的な力強い絆で繋がった友人は何よりも大切に思われます。育った環境、現在の境遇も違う「友」同士がお互いに助け、助けられ人生の荒波を乗り越えることの繰り返しの毎日であります。
幸運にも私には、福岡大学書道部員、書心会員という何にも換え難い多くの友人に恵まれており、どんな荒波にも耐えられる自信があり、こんな力強いことはないとつくづく思われます。
書心会には偉い人も、威張った人もいないし、先輩後輩という堅苦しい序列もなく皆気さくに話合える仲間と信じております。書心会員仲間同士の互助精神で今後ますますの発展を期待します。

「模擬役員会」

昭和五十一年度卒　山村　昌次

幹事（SP3年男）
「今日の議題は『福大書道部中国見聞の旅』を次回の部員総会に役員会として提出するかどうかを決定したい。」
副幹事（EE3年男）
「提出するにしても、まずは役員間の意志統一が必要で、不十分な議論では部員を説得するにも無理があると思う。各自積極的な意見を出してほしい。」
会計（CF3年男）
「中国って云っても中国・四国の中国ではない訳で旅費だって相当確固しなければならない。部費にも限りはあるし、個人負担が多すぎる。十日間なんてとても無理じゃないかな。」
企画（JJ3年男）
「いつだってお前は金のことが一番なんだから。個人負担が大変なんて云っていたら何も出来やしない。中国へ行くってことが書道を勉強している我々にとって有意義なことなんだ。」
渉外（EI3年男）
「もちろん我々は中国と云う国にある種のロマンすら感じている。ヨーロッパや米国とは違う何かを。しかし現実問題はやはり先立つ物、部員の反論が目に見えるし…いや俺は何としても行きたいし。しかし、その為には一食減らして、アルバイトもやるよ。」
会計
「七限祭のバザーの売り上げは全て部費へ繰り入れ、打ち上げは当然なし！」
庶務（LE3年女）
「部員全員なんて無理じゃない。卒業旅行ならともかく、五〇名となると大変よ。」
企画
「五〇名だからチャータ便で割安なんだよ。それに書心会から一〇〇万くらい寄付もほしいよな。」
幹事
「うん…実はOB会とも水面下で交渉中でね、書道部の決定次第で臨時総会を招集してくれることになっている。苦しい時の『書心会』ってとこだよ。」
渉外
「まさかOB同行なんてことないよナー。」
副幹事
「いや、ありえる。一口乗せてくれなんてね。ただ云えることはOBをうまく利用しない手はないヨ。A先輩はそれこそ何回も中国に行ってるし、Bさんは〇〇商社で中国へも出張しているんだ。それにC先輩は〇〇旅行社なんだし、いろんなことを相談しようと思っている。」
企画
「楽しい修学旅行になりそうだ。」
幹事
「大事なことは『中国見聞の旅』を通じて様々な勉強をすることなんだ。例えば一連の企画設計や旅行社との交渉に始まって、現地での渉外もあるけど、事前の中国語の勉強はもとより、スライドなどを利用しての予備知識の修得、中国書道史の勉強会も開きたい。」
庶務
「わあ～大変。中国はとお～いって感じ。とても来年じゃ実施できそうもないわネ。」
渉外
「揮毫大会の準備もあるのにそんなに時間ないよ。…誰がやるの、

役員かヨー。」

副幹事
「いやすべてプロジェクト制にして、チームに権限委譲するんだ。そうすれば各チーフを中心におもしろい物が出来るんじゃないかナ。」

庶務
「中国の大学も訪問したいわね。学生との交流もできたらいいと思わない？」

幹事
「とにかく創部以来初めての企画が夢に終わらぬ為に……。」

精神的な成長を……

常任幹事会　幹事長　河村　治尚

現在、我が国日本は、戦後の高度経済成長や、科学技術の著しい進歩により、世界屈指の経済大国となった。しかしその一方では、社会に於いて、高度工業化社会から派生してきた人間疎外現象により、人間社会の連帯感の希薄化・人間的な触れ合いの希薄化をたどっているのが現状である。

このような現状では、人間的交流を図るなかで、自己の個性を充分に発揮すると共に、それを伸ばし、周囲からの信用・信頼といった評価を得るといった、人間的な成長を成し遂げることが困難となっている。

しかし、我々次代を担う若者は、この現状に惑わされることなく、常に人間的交流を大切にし、自らの個性を引き伸ばせることが出来るよう、自己の為惜しみない努力をすべきである。よって、我々学生が通う大学に於いて、最も人間的交流を大切とするサークル活動が重要となってくるものである。我々学生は有限期間の中で無限の可能性を秘めたサークル活動に於いて、自らが常に問題意識を持つと共に何らかの目標・目的を確立し、それに向かって積極的に取り組むべきである。又、その過程に於いて人間的交流を図り、個性の発達・精神的な成し遂げ、有意義な四年間とすべきである。

最後に、この荒鷲の発行にあたり、御尽力されました、書道部部員、並びに関係者の皆様に深く敬意を表すと共に、書道部の更なる発展をお祈り致します。

「連盟について思うこと」

福岡教育大学　四年　大内田　優

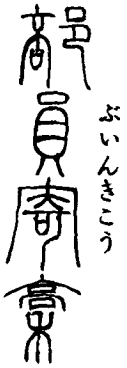
今回、福岡大学の機関誌であります「荒鷲」が発行されましたことを心よりお祝い申し上げます。

私は、今期福岡学生書道連盟の副運営委員長をやらせて頂いていますが、私が連盟について思うことと言いますと、これからの連盟のあり方の方向性が見えないことであります。つまり親睦融和を中心に据えて活動を行うのか、書技向上を中心に据えていくのか、未だに見通しが立たないということです。連盟員の多くは、親睦融和を望んでいるようであります。といいますのは、錬成会一つをとっても、練習時間を多くしようという気持ちがあまり感じられません。

私が思うには、親睦融和、書技向上のどちらかでなく、書道というのは、単なる書技向上を意味しているのではありません。書技向上も大切なことですが、古典を皆で学んだり、書道に関する知識を増やしたり、色々な作品を見て情操を高めたりすることも大切だと思います。

つまり、私は書道を中心に据えて活動を行うべきだと思います。そしてその活動の中から、「本当に楽しかった」と思える心や、本当にすばらしい友や仲間が生まれてくると思います。私は、この連盟にもっとすばらしいものが、存在していることを確信しています。

最後になりましたが、これからも福岡大学ＯＢの諸先輩方の御活躍を期待しております。


ぶいんきこう

青春

一年　川中　祥光

大学に入学してからはやくも3ヵ月になろうとしています。自分自身、高校時代のころから持っていた大学のイメージと実際の現実とのギャップになやんだころもありましたが、今では、大学というところの本質を少しづつではあるが認識しはじめて、大学生活にも慣れてきました。友達作りのため、そして有意義な大学生活をおくるために入った書道部もやめることなく今までなんとかつづけてこれることができました。始めは先輩方がこわくて、自分から話しかけることができなかったのが、今では気軽に部室に足をはこぶことができるようになるまでになりました。書道の方でも、まわりの人の作品とくらべて、自分の作品がいかにへたか、痛感させられましたが、今では、人は人、自分は自分と割り切って自分が納得するような書を書こうということを心がけて、なんとかがんばっています。今、青春時代のまっただ中にいますが、一つでも多く思い出をつくるために書道部で頑張ってみるつもりです。そして、一人でも多くの先輩、同輩、後から入ってくる後輩となかよくなって、大学生活の中で、自分自身一まわりも二まわりも大きな人間になりたいです。

四年間

四年　立石　成美

「四年て長いなー。卒業する時は二十二歳（母はこの歳で私を出産している）。短大にしとけばよかったかなー。」と、思っていたのが四年前。あの頃、四年生の先輩方が「四年間て長い様に思っているけどすぐに来るものよ。」と、よく言われていた。長いと思っていた四年間、過ぎてみると本当に〝あっ〟という間でした。その四年間の学生生活のほとんどを占めていたのが書道部での活動だった。

就職活動をしている時、人事の方によく聞かれたのが大学生活でやってきたことは、何か。もう一つが、大学生活の中で一番印象に残っているのは、何か。という質問だった。私は、胸をはって書道部の活動内容を話し、夏季合宿を終えた時の感動を話した。自信を持っていることは、堂々と話すことができた。もし、書道部に入部していなかったら、自信を持てる様なことをしていただろうかと思い、書道部に入部して本当によかった、やめずに頑張ってきてよかったと思いました。

社会人になっても、書道部で学び、得たことを忘れずに何にでも取り組んでいきます。

「自分を見つめなおして」

二年　高良　俊彦

まず自分の性格を見つめなおしてみるといったいどんな性格だったのだろうか、確か内気で真面目で「ん～」、冗談はさておき実際の所はどうだろうか、自分自身では結構短気でわがままな所があると思う。最近はそうでもないがむかしはよく自分がやっているとす頭にきたり、自分が悪いことをしてもそれを肯定的なとらえ方をして自分の悪い所をすなおに認めようとはしませんでした。こんな超わがままな性格だとお思いでしょう。その通りです。でも本当は、心の中で悪いと思っています。ただすなおに口に出してごめんといえない、悪い性格です。他にも悪い所はたくさんあると思うが、これくらいにしておこう。それでは、いい所を探してみよう。他人の目と自分の目は違うしましてや自分の悪い所は良く見えるがいい所は、見えにくいし話しづらい所がある。わたしのいい所は……。

こんな頭の固い日頃考えないようなことばかり書いていたら書くこともなくなってきたのでこのへんで終ります。

みなさんもたまには、自分のことを見つめなおして考えてみてはいかがですか。

ハーヴェスト・ムーン

四年　中村　博

四日ほど島へ渡り生活した。食料はコメしか持ちこまなかった。あとは魚を釣って間にあわす心算だった。不安もあったがあまり気にせず出発した。

島では民家から山ひとつ隔てた三方を山、一方を入江に面した開けた場所にテントをたてた。山には原生林が生い茂り、入江とは砂浜とごつごつとした岩とで結ばれている。また海に向かって右手には切り立った崖があり、まるで無人島にでもいるような気にさせてくれる静かな場所だった。ぐずついていた天気も次第に回復し気持ちよかった。

島では心なしか時間はゆっくりと流れているように感じた。そしてその時間は限りなく圧縮された密度の高いものであるようだった。

此処にいるといつも眠っている感覚が皮膚の下から起き上がってくるのを感じた。海の青、空の青、目から入ってくるもの全てが新鮮でこれまでに溜まった不純物を一つずつ取り除いてくれるようだった。

三日目の夜、ビールを買い四人で乾杯した。同じ釜のメシを食べた仲間である。話題はつきることはない。島の夜は完全な静寂と漆黒の闇につつまれる。空は澄みわたり月が青白く輝いていた。今までに見たこともないような美しい月だった。

明くる日、雨が静かに降りそそぐ中、自分達はテントをたたみ島を後にした。

サッカー選手が夢だった僕

四年　服部　大介

「あなたは夢を持っていますか。それはどんな夢ですか。」僕は就職活動を行っている時にある会社でこのような事を聞かれた。

夢。誰でも小さい頃、作文にして書いたり、人前で言ったりしたことがあるはずである。プロ野球選手やパイロット、お金持ちや芸能人など、それぞれ特別な夢を持っていた。かっこいいものやすごいこと、偉いことなどに非常に憧れていた。しかし、その小さい頃思っていた夢に近づいている人、今目指している人、そして実現させた人はどれくらいいるのだろうか。僕はとてもこの中に入ることはできない。歳をとっていくごとに、自分の小さい頃思っていた夢を忘れかけていっている人が多いのではないだろうか。「あなたの夢は何ですか。」この質問を受けた時、僕はその場で思いついたことを言ったが、何となくその後心にひっかかりを感じた。

人間が生きていく中で、夢は必要なのだろうか。曲を聴いていると、「夢と勇気があればそれでいい」という歌詞を耳にした。その時はさらっと聞き流していたが、ふと思った。夢はその人自身が持つものだから、自分らしさが出るはずである。そして、それに向かって努力する勇気を持つこと、これは本当に生きていく中で必要なことだと僕は曲を聴き終わった後思った。「夢と勇気」社会人になっていく僕にも必要なことであり、これからの人生に向けての「夢」を持つべきである。そしてその夢は・・・・・。

「無題」

一年　片寄　広

入学してあっという間に三ヵ月が過ぎました。入学当時は初めての一人暮しでやっていけるのかなとか友達できるかな等の不安でいっぱいでした。そして、約一ヵ月間、学校へ行って帰って、テレビを見て寝るという生活パターンができてしまいました。一日一日がとても楽ではありましたが、生活に張り合いというものがなく、退屈した日々を送っていました。その頃、勧誘週間の時に誘われた書道部の事を思い出して入部しました。説明の時には週三日と聞いていたので、意外と楽な部活と思っていました。しかし、入ったのがちょうど表装週間中で毎日にあり、しかも、入ったばかりの緊張感というものがあり、とても疲れました。最初の頃は、なかなか先輩の名前も覚えられず、部室にも行きにくいと思うことがありました。

六月に入ると、強化練習が始まり、毎日半

な美しい月だった。

夢はその人自身が持つものだから、自分らし

六月に入ると、強化練習が始まり、毎日半

紙に字を書き続けました。自分では何枚書いても全然上手になってないように思ったけれども、先輩達がほめてくれたり、また、「ここはこうした方がいい。」などと指摘してくれてやる気も起こってきました。

これからも書道に、また、いろいろな行事に楽しんでいけたらいいと思います。

「自由投稿写真」

二年　工藤　大行

さて、荒鷲自由投稿という事ですが、昨年度は随分ふざけ、この荒鷲がOBの方々にも配られたと聞き、青ざめてしまった今日このごろであります。・・・・（行かせざ）・・

なかなかお題がないと、何を書いていいのかわからんな・・・　（しばらく無言。）

Oh！そうだ今宵は大分県民である自分の特性を生かし方言&名所でも書こう。

まずわっ・・・え―っと代表的な所から…

●きつい→よだきい　●とても→しんけん

●こわい→おじい　●今時な→トレンディ

●いやだ→せっちい　●可哀想→むげねえ

●うるさい→ぎゅうらしい

●走って疲れた（一部で）→つうたちだった。

後、語尾に「ち」や「え」がやたらつく。

君もこれだけ使いこなせれば大分県民に片足をつっこんだようなもんである。

次に名所であるが、思いつくところで、ざっとこんなもんである。

●湯布院→言わずと知れた温泉地。

県民はそれほど関心がない。名物「やせうま。」（もちろん細いやせた馬ではない。）

◎耶馬渓（青の洞門）◎日田（小京都）

◎別府―スギノイパレス、住吉浜、ケーブルラクテンチ、高崎山、ユートピア

◎久住―山木牛。◎竹田―バチンコポパイ

◎日出―ハーモニーランド　◎国東―石仏

もう書けないので続きは来年です。おわり

無題

四年　原田　慎太郎

大学に入り、ふときづくともう卒業という時期にきていた。今、大学四年間というものを思いかえり、また今後を思うと、なんて気楽な四年間だったのかと、あらためて思う。

あそびたいときにあそび、寝たいときにね、食いたいときに食い、授業に行きたいときに行けた。なんと気楽な四年間だったとつくづく思う。

来年からのことを思うと、気が遠くなる。なにかにつけて社会人だから、と言われ、なにかにつけて責任をおわされる。

まぁ、出世欲のかけらもない俺だから、やることだけやって、あとは人生を楽しもうと思う。

一度きりの人生だから、悔いだけはのこらぬ人生をおくりたいと思う。

おおいに、人生を満喫しようと思う。

私と芸術

三年　坂井　喜久代

私は小学校時代ピアノを習っていた。その頃は先生におこられていたからそれなりに練習し、自分の好きな曲を演奏したりしていたものだった。しかし今は家の隅にさびしげに置いてあるだけで時々弾いてみても指が動かない。

中学校時代、絵を描くことが好きで筆や珍しい色の絵の具を買ってもらっていた。しかしそれも今では押し入れのどこにあるか分からなくなってしまい、埃をかぶったスケッチブックが本棚にあるだけだ。

高校の時は、一応書道部に入っていたから、書道は好きではなかったが、2年間続け、多くの掛軸を作り多くの人にほめられた事を今でも覚えている。今見てみるとなんて下手なんだと思うけど、私の一つの宝物になっている。

暇な時、ピアノを弾いてみると、妙に楽しくなって時間がたつのも忘れてしまう。また、スケッチブックをひろげてみるとなんともおそまつな絵が出てくるが、昔その絵を描いて

いた時の完成間近の胸の熱くなる気持ちを思いだす。
幸いにも（？）大学に入っ書道部に入部して書道だけは続けている。何年かたって、この書道部と大学生活を思い出す時が来るだろう。

無題

一年　久保　壮

人が生きていくうえで、重要なこととは何であろうか、たぶんそれは「責任」出はないだろうか。自分の考えている「責任」とは辞書に載っているような意味の事だけではない。
例えば、或る書道の師が、他人の作品に対し墨を落としたり、詰まったりしたとする。これは正に「無責任」である。書の心を説くべき人が人の心を踏みにじる点が、この愚行の一番「無責任」なところである。この例では多少理解し難いと思うが、簡単に言うと、「責任」ある行為とは、人の心を尊重し、更には己の心を尊重した行為である。言ってみれば、自分の心に対して責任を果たすというような行為である。蛇足だが、先に述べた例の行為は、辞書に載っている責任の意味で、「やらねばならない任務」という事にも反している。
自分は今、「責任」ある人間になりたいと日々努力をして行こうと思っている。何故なら、「無責任者」つまり卑怯者に、心を踏みにじられる事ほど辛く悲しく腹立たしい事はない、また自分のとった「無責任」な行動のために人が傷つくのを今まで何度となく見てきて、その痛みが身にしみてわかったから。

読書案内

一年　牧本　朋子

あまり学生の読まないような本で、好きな作品を紹介しようと思う。
「ドグラ・マグラ」
出版社によっては手に取るのがためらわれるような表紙だが、中味はそう過激でもないので一読をおすすめしたい。
精神病の患者と主治医をめぐる、脳の推理小説であり怪奇幻想小説である。ここに輪廻転生の思想や、はたまた精神病院批判も入り混じって、読む者は幻惑させられる。くれぐれもイッキ読みにご注意を。
「桜の森の満開の下」
花弁ふりしきる桜の森の中に独りで立っている自分を想像してみてほしい。桜の美というものの魔性を、あますところなく描き出した短編。美とグロテスクなものとの対比がみごとである。美しいものに畏怖しながら魅かれ、魅かれるために罪を罪と認識しないまま重ねてゆく男。美しいが残忍な女。男性と女性の根源的なかかわりが、そこにはあるのかもしれない。
これを読む人は皆、最後の一行に驚き、酔うだろう。

―ふと考えた事―

二年　脇田　昇英

ふと考える事がある。なぜ、苦しい事やつらい事にあえて向かっていくのだろうか。楽をしようと思えばいくらでも楽ができるのに考え方は人それぞれ違うわけで、生き方もいろいろあるわけで、だから自分の考えを人に押しつけるような事もしたくないし、人から押しつけられたくもない。自分がどう生きるかは、自分で考えるべき事であるから。でも思うのは、学ぶ事が自分の周りに数多くあるという事である。学ぼうとする姿勢が向上心につながり、自分を大きくするだろう。言葉では簡単に言えるし、きれい事かもしれない。だから、どう捕らえるかは自分次第である。しかし、一つだけ言いたいというか、自分が思うのは、何事でも逃げ道はいくらでもあるという事である。苦しみから逃げようと思えば、それをやめればいい――。大事なのはやり通す事であり、それが難しいからこそ価値があるのである。「継続は力なり」ともいうように、自分自信の為にも目の前の事から

簡単に逃げるべきではないと思う。
でも、考えようによっては逃げた方がいい事もあるかもしれないが・・・。一度、自分で考えてみてはどうですか。今の自分を。

街を出てみどりへ帰ろう。

三年　中山　美津子

街を出てみどりへ帰ろう
クルマやバイクはもういらない
はきなれた靴、一足あればいい
お金が形を変えただけの
夜の楽しみはすぐあきる
風に吹かれ鳥の声を聞くのに
お金なんかいらない
目を閉じ
そこにいるだけでいい。

街を出てみどりへ帰ろう
ディナーなんかもういらない
おいしい空気さえあればいい
常識という重い鎧を脱いで
生きていくこと
それはとてもシンプルで簡単なこと
だから
街を出よう。緑へかえろう

私の生き甲斐

一年　栃原　倫彦

雨ばかり続く今日この頃。皆さん、どうお過しでしょうか。私が栃原です。いつも馬鹿ばかりしていますが、今日はちょっと真面目に語ろうと思うので宜しくお願いします。
現在の自分の生き甲斐ってなんなんだろう。三十秒くらい考えた所、答は出ました。そうそうです。「車」です。（これっきゃない）
私が車を意識し始めたのは、幼稚園の頃です。あの頃は毎日ミニカーで遊んでいました。（ウ〜ン、懐かしい）そして、今では立派に車を操縦できるまで成長しました。免許はないけど・・・・。
先輩方は、私の事を〝ヤンキー〟とバカにされますが、それはちがいます。私は〝走り屋〟なのです。既に、二年のY先輩を筆頭に〝書道部走り屋部隊〟なるものが結成されました。（会員募集中）走り屋になって最初はまあ油山。次は三瀬。そして高良山でしょう。（あー、ワクワクするぜ、ちきしょう。）そのためにも毎日、免許を取得するために頑張っています。七月中には取れるでしょう。し、しかし、この間教官に「お前は絶対事故るぞ」と言われ、ちょっぴりビビッています。来年まで生きてるかなあ、なんて・・・・。
以上のように楽しい日々を送るためにも、皆さんも自分の生き甲斐というものを見つめてみてはいかがでしょうか。　お・わ・り

私と書道部

三年　大倉　隆雄

私は大学に入った時、何かのサークルに入って友達を作り、遊んで、楽しく毎日を送ろうと思った。また、友達とも「楽しくて、きつくない愛好会」に入ろうと言っていた。しかし、突然何を思ったか、昔から続けてきた書道部に入った。入部した理由は、書道をしてきたことと（書道は好きではなかった）、週に何日か来て書くだけだという安易な気持ちからであった。
入部してまず驚いたことは、書道をやりそうもない楽しく明るい先輩達ばかりで、しかもみんな上手ということだった。最初の一年間は、ただひたすら部に流されていったが、楽しかった。一年、二年と先輩にかわいがられ、いじめられ、また時には叱られ自分自身良い意味で成長したと思う。最初に自分が変わったのは、二年の時に事務局次長をしてである。一年の頃は、大人しく、人前で発言もできなかった自分が、初対面の人にも自分から話せるようになった。次に変わったのは、幹事になってである。一番変わった所は、視野が広く、大きく物事が見れるようになった。まだまだ、これからも自分自身もっと変われると思う。常に人は、向上心をもって前向きに行動をしなければならない。大学時代に楽をしようと思えばいくらでもできるが、敢え

てきつい思いをして良かったと思う。今では、書道部を続けてきたことが誇りに思える。

無題

四年　山村　陽子

「あなたが一番貴いと思うことは何ですか」就職の調査書にこんな記入欄があった。（一番貴いこと？こんなこと今まで考えたこともなかった。困ったな）普通に聞かれてもうまく答えられないだろうが、これが面接で尋ねられたらと思うと、随分悩んでしまった。私は人前で何か意見を言う時にあがりがちで、また、あんなことを聞かれたら、こうつっこまれたらどうしようと変に心配しすぎるところがあるからだ。

そこで、いろんな物事をたくさん吸収したとはいえない頭で必死に考えたすえに、＜相手の気持ちを思いやる心を持つこと＞と書くことに決めた。実際の面接ではこのことについて質問されることはなく、面接が終わるとすっかり忘れてしまっていたが、この原稿を依頼されて何を書こうかと悩んでいたら、冒頭の言葉が頭に浮かんだ。面接後二ヵ月程過ぎて、自分が考えた＜相手の気持ちを思いやる＞ことは、何かまだ背伸びしたもののような気がする。現にこの段階で、常に実行するという心掛けが出来ていないからだ。

というわけで、今の私にははっきりとこれだと断言できる＜一番貴いこと＞がない。もっと経験値を上げないと見つからないような気がする。

ここで一つ質問があります。

「あなたが思う一番貴いことって何ですか。」

過去　現在　未来

二年　島　幸輝

大学に入ってかれこれ一年と三ヵ月（六月二十日現在）たちますが、今までをふりかえってみますと、いろんなことを行ってきたなあという一言につきます。書道部に入部して諸活動を行い、連盟というものを知り、顔見知りの方々ができたこと、大学入学前後にアルバイトというものにはじめてトライしたこと、あまり盛んではありませんが、ボーリングというものをやるようになったこと、さりげなく、かつ、方々からの苦情を受けるような格好をするようになったこと、英会話に行き始めたこと、そして最後は、やはり、芸術文化の最先端を行く、フランスの、フランス語という、耳新しく感じさせられるようなジャンルの勉学にはげんでおります。

現在、なぜか、これだけやってきているのに、充実感をほとんど感じることがありません。こんな多くのことをやっているのが本当に幸せなのかと疑問に思うようになったのは、本腰入れてやれるものが一つあった方がベターじゃないかと思うようになったからです。自分にとって一番集中してやれるのは、もちろん、語学であり、英語と仏蘭西語です。勉強ばっかりしてどーするんやとヤジを言われても、自分はこう答えるでしょう。「それは勉強ではなく趣味なんだ。」と。

もともと、勉強はたのしいけど、それが自由にこなせるものでなければしないという考えを自分はもち、勉強する意思がなかったら、大学へは来なかったと自分は強く主張することができます。語学は自分にとってまさに勉強しようとする意志の対象です。それをマスターするには努力もおしまず、何かを犠牲にするかもしれませんが、一番上にあるものとして、崇拝していくつもりです。大学生活でずっと追い求め、それを確実にとらえられる日がくるのを、たのしみにまとうと思います。

な気がする。現にこの段階で、常に実行するという心掛けが出来ていないからだ。

現在、なぜか、これだけやってきているのに、充実感をほとんど感じることがありませ

笑い声

一年　古瀬　徳明

「ワッハッハー」という笑い声に、誘われるかのように、授業の空き時間になると部室にやってくる。みんな、昨日のおもしろい出来事の話や、昨年の夏季合宿のことなど「ワイワイガヤガヤ」言い合って、笑い声が絶えない。部室に居ると、たまに先輩がドライブに誘ってくれたり、「メシに行くぞーっ。」と言って、一緒にご飯を食べに言ったりして、とても楽しい。でも時には、例外もある。

ある日、W先輩とU君T君と私で、高良山にドライブに行った。ところが、その日が土曜日しかも、十三日だったのが災いしたのかそこには、怖いお兄さん、お姉さんがたくさん集まって、山道をどこかのサーキット場かの様にバイクや車を飛ばしていたのである。私はその光景だけでも怖かったのだが、その上、何と、私たちの乗っている車にめがけて一台の車が突っ込んできたのである。私は、「これで、人生が終わった」と思ったが、何とか、追突せずに済んだ。ところが、相手の車はブレーキをかけることなく草ムラに突っ込んで、身動きが取れなくなったのである。引き返して、山とケンカした車の運転手にT君が何食わぬ顔をして、「どうしましたか。」と尋ねると、陣内さんそっくりの運転手は、「あんたらかぁー。」と一言。もちろん、私たち一行は、直ちに、サヨナラしたのであった。とにかく、とても楽しい部であります。

「美徳は完全な美徳ではない」

三年　佐々木　智子

ある本に、健康は他人の痛みの分からない人を作り、勤勉は時に怠け者に対する狭量とゆとりのなさを生む。優しさは優柔不断になり、誠実は人を窒息させようとする。秀才は規則に則った事務能力はあっても、思い上がる程には創造力はなく、自分の属する家や土地の常識を重んじる良識ある人は決して本当の自由を手にすることがないのが現実であると表現してある。決して、健康や勤勉が悪いということではない。一つの言葉には必ず二つ以上の意味があるということを考えてほしい。なぜなら、美徳である程その事を自覚せず、自分に自信を持ちすぎる危険が多いからである。自信を持たないのも問題だが、とにかく色々な角度から物事を見る人間でなければと思う。そうは言っても簡単にできない事も把握している。でも、できない事をやってみる精神が大切だ。世間では、何にしても無難にこなすマニュアルが氾濫している。車で同じ道を毎日来てもつまらない。少々遠回りをしても何かを発見したい。もし行き止まりにぶつかっても、こっちよりもいつもの道の方がいいと改めて感じることができる。一生懸命何かをやる姿程、魅力的なものはなく、それは決して条件を必要としない。自分自身で感じること、それが生きることにつながる。そして、私の場合は自分の中に収めておく。"完璧"という言葉はない。

「絶望」

二年　安武　淳

ある本を読んでいるとなかなか為になることが載ってあったので皆さんにも紹介したいと思います。人というのは人生の中で幾度か絶望してしまうことがあります。例えば恋人にふられたり、大きな病気をしたり、事故を起こしてしまったり…。突然ですが孔子のことばの中に「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る。」とあります。訳しますと「冬の寒い時期になって、松柏のような常緑樹と他の落葉樹の区別がつくものだ。」という意で。このことばが何を意味するかと言いうと絶望で目の前がふさがったり、自分が小さくしぼんでしまったような気もしますが普段は考えなかった人生観と向かい合ったり、人の優しさを知る機会でもあり、絶望という時期どう過ごすかで復活できるか、そのまま絶望の沼に沈んでいくかが決まってしまうという意味です。つまり、人というのは順風の

人生を歩んでいるときよりも、逆境のときこそ真価がわかるものなんです。
皆さん、為になったでしょうか？

わがままの言い訳。

二年　真庭　陽子

〝何もしてなくても確実に歳はとる。〟この事に気付いたのは本当につい最近である。春で、とうとう二十才になった。こういう時、誕生日が早いのも考えものだと思う。1回生時の後期がさらさらっと滑っていってしまうと、2回生、の後ろに隠れて二十歳がそろそろと匍匐前進してやって来る。
「あ、まだ私にはそんな時期じゃ無いので。」等と言おうとも、既に時遅く、気付いた時には肩をしっかり捕まれていた。
　別に、二十才になる事をそれ自体に文句は無い。けれどここ何年、精神年齢が実際年齢にどんどん開きをつけられている様な気がする。高校位から、精神年齢はほとんど変わらない。その証拠に友人から呆れ顔で言われる事は高校時代のそれと大差ないのだから。寒ければ、寒いと騒ぎ、授業中は熟睡し、人の名前はなかなか覚えず、人と会っても気付かない。あの頃から、一体何度言われた事、だろうか。更には本人、努力の二文字が苦手であって、そのうち何とかなるだろう、の楽観主義（端から見れば無責任）にどっぷりと頭までひたりきっている。
　考えあぐねて、自分のわがままに忠実なんだ、と、どうにか決着をつける事にした。今は正真正銘、ただのわがままだけど、いつかは自分のやりたい事、という「わがまま」に忠実になる時の為の物だと期待して。
　多分これも、私のわがままなのだろうけど。

「柄にもなく、ちょっと照れくさい事を書いてしまった文」

四年　渡辺　太郎

　あれは、夏休み最後の日、彼は言った。「今日で終わりぜ。これでいいとや。どっか行かんや。」私は彼の申し出をなんとなく受け入れ、彼の車に乗った。旅の支度もせず、M子さんちで飯を食った後、もう一人の道連れと共に広島へと旅立った。全てが衝動的だった。が、その行動全てに何らかの喜びを感じていた。数時間後、車窓の前方に現れた大きな虹に、期待と感動を覚えた。

　私の父は強く厳しく、母は明るく楽しい。彼は心身共に強く、信念を持って生きている。彼の背中は未だに強大で、今の私ではとてもたちうちできない。そんな彼を私は尊敬している。彼女は私たち兄弟の良き理解者であり、我が家のムードメーカーでもある。そして今でも彼に恋をしている。私はそんな彼らに愛されて、生まれてきたのであろう。

「また泣かしてしまった。」と私は思う。私にとっては大した事ではなくても彼女にとっては重大な事なのだろうか。彼女が泣きやむと、すこしはにかんで、照れ隠しに私をぶったりする。私は彼女のその仕草が意外と好きだったりする。

　空はいいですよ。広いし。最近は地面ばっかり見て暮らしているからその事を忘れがちですが。

　彼にとって幸せは、空には雲があって、ゆっくりと流れていること。奴らに出会ったこと。父はとても恐く、母は楽しいということ。彼女は今でも、自分を好きでいてくれていること。そして、それらの事をまだ自分自身が忘れていないことでしょう。

であって、そのうち何とかなるだろう、の楽

いる。彼女は私たち兄弟の良き理解者であり、

「私と書道」

二年　釘嶋　美佐緒

私と書道との出会い、それは、幼稚園の頃に溯る。兄が、小学一年生になってから習い事（習字）を始めたのである。当然に私も興味を示して、縦棒、横棒書いていたものだ。真剣に書くこともあったが、隣で書いていた兄とよくケンカもした。結局、座布団に墨がということも。それから中三まで続けた。

その後、高校では芸術で書道を履修し、そこで書道の先生が母の同級生であったことを理由（？）に、書道部に入部した。が、部の活動はなく、部員の顔さえ知らない。唯、先生に出された課題を家で書いて添削して頂いただけである。卒業写真には書道部として写っているが、初めて部員の顔と人数がわかったのである。その後は、単独で少し書いていただけで、なかなか上達せず挫折ざみの私。

もう少し上手になりたい、かながやってみたいという理由で現在書道部へと…。しかし書道部の内部構成が徐々にわかり、やっていけるのだろうか、という不安や、もしかしてとんでもない選択をしたのではという不安が入り交じる今日この頃ですが、とりあえず、一生懸命頑張っていきたいと思いますので、宜しくご指導下さい。

ぼくの生まれた所

一年　河原　真

ぼくは岡山県に生まれました。岡山県井原市東江原町に育ちました。けっこう田舎です。星空がきれいです。天の川も見えます。中学校は木之子中学校と書いて「きのこちゅうがっこう」って読むんです。本当です。そんな田舎でも、コンビニエンスストアがあります。ローソンなんですけど午前七時から午前二時までやってます。たぶん年中無休です。

ぼくは昔よく泣きました。泣き虫なんです。かっこ悪いけど。おねしょも小学校一年生までしてました。今はもうおねしょはしてません。治りました。こっちでは言われませんが岡山戻ると近所のおばちゃんや、小学校、中学校の友達には「まこちゃん」て呼ばれます。これ読んでる人は「かっこわる〜い。」と思うかもしれませんが十何年も呼ばれていると慣れます。でも、「まこちゃん」と呼ばないで下さい。恥ずかしいから。

前期のころは六、七月ごろから岡山がこいしくなりましたが、最近はこっちの生活になれてきたみたいで帰りたい気持ちがそんなに強くないみたいです。でも、ぼくは生まれた所が好きです。なぜってそれはひ♡み♡つ♡

ミネラルウォーターについて

二年　松元　恵美

「容器入り飲料水」は原水と処理の方法によって四つの品名に分けられます。

●ナチュラルウォーター
特定されたひとつの水源から採水された地下水で、沈殿、濾過、加熱殺菌以外の処理をしていないもの。

●ナチュラルミネラルウォーター
ナチュラルウォーターのうち、地下水の中に地層中のミネラル分が溶け出している鉱水や、鉱泉水などを原水としたもの。

●ミネラルウォーター
ナチュラルミネラルウォーターのミネラル分を調整したり、臭気をとるためにかくはんしたり、複数の原水を混合したもの。ただし国内ではほとんど作られない。

●ボトルドウォーター
飲用に適していれば、処理方法に決まりはなく、川の水や水道水を原水としたものや、ミネラルを添加したもの。

ボトルドウォーター以外国産のものは、採水地を町名まで書くことになっています。その地は内容量、製造年月日、賞味期間（六ヵ月以内の場合）、製造者や販売者、または輸入者名と所在地、輸入品は原産国名などです。

ミネラルウォーターを買うときは、表示を確認することも大事かもしれません。いずれにしても水道水の約二千倍に近い値段です。飲む時も適温の10〜15度に冷やしておいしく飲みたいですね。

僕の原チャリ生活

一年　植本　豊

僕は、平成四年三月二十四日火曜日（次の日の二十五日は僕の誕生日である。）に、原付の免許をとった。それから二日間、兄の原チャリ（スズキのアドレス）をぱちって、満タンに入っていたガソリンを空ケツになるまで乗りまくった。

平成四年四月二日木曜日、福岡に来た。その日の午後、父の車でスズキのバイク屋を探し回ったが見つからず、ホンダのバイク屋に入ってみると、なんと、僕の欲しかった、スズキのセピアZZがあるではないですか。僕は、さっそく、それに決めて、買いました。

平成四年四月五日日曜日、僕の家に、僕の愛車セピアZZが届いた。さっそく、乗り回し、一日にして満タンのガソリンが空ケツになった。それから数日後、僕のミスで、愛車のZZは、エアクリーナーを破壊、Vロックがからみつき、動かなくなった（修理代三千五百円）。それから、数日後、一晩だけ、学校に置いていただけなのに、カギやメットを破壊された（修理代三千円、犯人は未だ見つからず）。それから数日後、愛車のZZに、傷が入っているではないですか。ショックで十分間もア然としてしまった。

六月に入り、プレリュードにはぶつかりそうになるし、二人乗りで罰金は払うは、最悪な事ばかりが続く。しかし、我愛車ZZは、バリバリ調子がいい。ただそれがうれしい事である。

幸いな人

三年　中村　友理子

自分の貧しさを知る人は幸いである
天の国はその人のものだからである
悲しむ人は幸いである
その人は慰められるであろう
柔和な人は幸いである
その人は地を受け継ぐであろう
義に飢えかわく人は幸いである
その人は満たされるであろう
あわれみ深い人は幸いである
その人はあわれみを受けるであろう
心の清い人は幸いである
その人は神を見るであろう
平和をもたらす人は幸いである
その人は神の子と呼ばれるであろう
義のために迫害される人は幸いである
天の国はその人のものだからである

この言葉はイエズス・キリストが弟子たちに言った言葉である。私はこのような人に成りたいが、なかなか成れるものではないと思う。私は別にキリスト教ではないけど、この言葉には、何か引かれてしまい心に残った。

作品を創る

四年　安永　格

作品といっても色々ある。一般にすぐ思いつくものは俺たちの書いている「書」のような芸術作品や、周りに人がいるのもおかまいなしに俺達を笑わせ、涙させる文学作品などがある。その他、野球やテニスなどのスポーツもだれかが考え作ったものだから作品の一つだと俺は思っている。まだまだある。ビルやダムなどの建築物。何者かがこれから作るであろう薬・紙・ソフト・金・遊び・ばね・子供・・・まぁいい。これらの作品の作者はそれが苦労した作品であればある程、愛着を感じる。その証拠に、提出の遅い原稿を笑顔で集め、ワープロ打って苦労した編集者はこの荒驚を大切にするだろうし、今、苦心（？）して書いているこの文章を俺は（おそらく）好きになる。

ところで俺は書道部も作品だと思っている。部は部員全員の合作で一人が苦労して作るものではない。協力が必要だ。色々な協力の仕方があり、役員になるとか、一般部員として参加とか、役員に反抗するのも協力の一つだろう。ただ、協力の過程で創造心を忘れてはならないと思う。仕事だけをこなしたり、ただ参加するのではなく、自分自身の作品を創ろうとすることが大切だと思う。「俺は部に笑いを創る。」とか「私は部に色気を創るわ」とか何でもいい。こうした一人一人の小さな作品が重なったり、時にはぶつかったりして、俺達にしか創れない福大書道部ができるのではないだろうか。

俺の大学生活は、この書道部の作品創りにもっとも多くの時間を使った。それだけに多くを創り残すことができ、もっとも楽しい時間だったと思う。これから社会に出て、この書道部で精一杯努力できたことの自信と、それを支えてくれた周りの人達の協力の尊さを忘れずに、企業という大きな作品創りに少しでも多くの貢献をしていきたいと思う。

ある秋の日のこと

一年　池田　留理子

それは私が高校生のときのこと。ある午後の五時間目、そのとき私は空を眺めていました。澄きとおった青い空、白く浮き上がった真昼の半月、遠くに見える緑の山々…。と、そのとき、私は我に帰った。私の読む番が来た。でもどこから読んでいいのかわからない…。

それは私が自転車をこいでいたときのこと。そのとき私は銀杏並木を眺めていました。木の葉の舞いおりる姿を見ながら与謝野晶子の詩を思い出していました。と、そのとき。私は我に帰った。目の前は電柱だった…。

そんな訳で私は秋が好きです。秋のお天気のいい日に外でのほほんと風景を眺めるのが好きです。スポーツをするのも、読書をするのもいいけど、やっぱり落ちついて澄きとおるような秋の風景を楽しみたい。でも今年の秋はこんなふうにのんびりとすごせるでしょうか。今年は七隈祭などなんだか忙しそうです。でもその合間をぬって秋の京都旅行をするつもりです。

＜テーマ原稿　仲間＞

仲間について

二年　白井　和宏

自分に荒鷲の原稿依頼が来た。なんとテーマ選択の原稿である。僕は文章が下手であるので悩んだ挙句「仲間」という題を選んだ。

さて、これから本題に入るが一口に仲間と言っても説明できない。そこで国語辞典を頼りに調べると、「一緒に何かをする間柄。また、その人。」とある。春季合宿でも議題としてあがるほどの難解な言葉である。狭義の意味で考えると部内の同輩があてはまると自分では解釈する。しかし日頃は楽しい「友達」という感じで「仲間」という意識などはまるっきり起こさせないような人達ばかりであるのが現状である。辞書の意味を踏まえて考えみると、自分たちは仲間として、夏季合宿、西日本高等学校揮毫大会、春季合宿等々、いろいろな事を一緒にやってきた。（こういうことを一緒にやってきたのだなぁと思い出すと感慨深いものがあるなぁ・・・なんちゃって。）　まあ、とにかくこれから先何が起こるかわからないが、この仲間たちとこれからの諸行事等々をやっていくのである。協力したり協力してもらったり、時には喧嘩もするであろうがこの仲間たちと楽しくやっていきたいものだ。（文章が少々くさすぎる面もありますがその辺はご了承下さい。）

「仲間」

同輩

四年　平田　光子

「同輩」――辞書には、先輩・後輩に対して同じ身分や地位の者・等輩とある。その同輩についてだが何とも個性の強いユニークな面々である。「十人十色」という言葉があるがまさしくその言葉通りである。

人の顔を見ては、二言目には“飯おごって〜”のN、　しっかりしているがちゃっかりもしているI、　少し恐いところもあるがshyなところもあるY、　ファミコン大好きのT、　もの静かだけど時に変わるF、　一番優しい先輩（？）と評判のD、　何事にも熱心なM、　時に突っ走る傾向にあるS、一番お姉さん格のK、　心配性だけど時に行動派のN、　物事を冷静に考えるY、　ドジで凡人なH、　…　ざっと考えただけでも色々と浮かんで来る。

入学時のあの緊張感は一体どこへいったのか？　多少の恥じらいを持って話したりしていたのに…一体今は？　とても個性が強すぎてバラバラの様であり結構まとまっている様であり…。

知らない人もいるかもしれないけど、一年の頃はそれぞれの誕生会を開いたりもしていた……いまとなってはなつかしい。

せっかく縁があって知り合ったのだからこれからもずっと宜しくと言いたいがとても面と向かっては言えぬ言葉なのでこの場を借ります。おわり

「仲間」

一年　松元　祐二

大学に入る前の自分には、いろいろな場面同じ境遇を味わった仲間が多くいた。

例えば中学校の時で言えば、野球部の仲間があり、高校の時となれば多彩で、英単・熟語あるいは古文の小テスト不合格で放課後暗くなるまで居残り追試を受けた常連の仲間、センター試験や国公立二次試験あるいは私大入試に向け朝の小テストから放課後の7限まで共に教え合い励まし合った仲間があった。特に三年の時はクラスのみんな必死だったので、男女の垣根を超えた仲間ができた。とはいっても、高校までの仲間づくりは、所詮一地方間のものに過ぎず、九州・西日本レベルまでには程遠かった。

しかし、晴れて福大に合格し、大学生活を重ねていくにつれ、仲間の幅は西日本レベルに達した。幅が広がったことで、話題も多方面に及ぶようになり、大学に入ってからの自分は、以前に比べればかなり変わったと思う。

大学生としての四年間（留年すればそれ以上かもしれないが）いろんな人と出会い、そして仲間をたくさんつくっていこうと思う。せっかく大学に入れたのだから、幅広い交際

りますがその辺はご了承下さい。）

れからもずっと宜しくと言いたいがとても面と向かっては言えぬ言葉なのでこの場を借りして仲間をたくさんつくっていこうと思う。せっかく大学に入れたのだから、幅広い交際

のできる仲間をつくらなきゃ大損だ。若いうちはやりたいこと何でもできるのさ、というある歌の一節があるが、そのような心をもってなかまづくりをすれば満足のいく大学生活がすごせるに違いいない。

仲間（＝親友とすると・・・）

四年　福島　幸治

今回自分は寄稿文を書くに際していつも身近にいるから書きやすいだろうと思い、題を「仲間」に選んだ。しかしいざ書こうとするとなかなか出てこないのである。普段身近にいすぎて考えたことがないんだなぁ、と思いつつ頭の中では小学校の道徳で見た番組の主題歌の〝仲間、仲間、な～か～ま～〟のフレーズが繰り返されるばかりだった。

題を変えようかとも思ったが、せっかく決めたんだからと自分の友人の事などを考えてみた。

自分には学内、学外にそう多くはないが、気軽にしゃべったり、遊びに行ったり、相談事を持ちかけたりできる友人がいる。そういう友人みんなを仲間というんだろうか、と考えてみた。友人の中には話をしたり、遊びに行ったりするだけの友人もおり、そんな友人を仲間と言えるんだろうか、もっと深い意味での仲間がいるんじゃないだろうか、では深い意味での仲間とはどんなものだろうか、と考えていった。

よく言われるのが、何でも相談できる友人が良い友人だということだが、そういう仲には二、三ヵ月もその人と付き合っていれば、なれるのではないだろうか。もっともっと深い意味はないのかと考えていると、ふと一つの諺が頭に浮かんだ。その諺とは〝友を責むるは朋友の道なり〟というもので、意味は友人の非を責めるのは真の友の証拠だ、というものである。あぁ、これなんだ、とそのとき自分で思いついたものに納得してしまった。

自分の悪いところを指摘してくれて、自分を導いてくれるような友人が、本当の友人であり、親友と呼べるものではないだろうか。友人の相談事を聞いたりするのは誰でもできるが、それにアドバイスをしたり、忠告したりするには相手の事をよく知っており、相手より様々な面（人間性など）で上にいないとできないことではないだろうか。自分は友人から忠告してもらってばかりいる。もっと自分を磨いて忠告できるような立場になりたいものである。

（変なぶんしょうになってしまった。）

仲間

一年　熊野　雅之

自分が書道部に入ったことは、世界の七不思議の一つになるかもしれない。そのくらい自分にとっても、自分の周りの者にとっても珍事であった。全ての始まりは、勧誘週間に書道部の前を通り、つかまり、話を聞かされたことであった。四回生のある先輩の話であったが、口調も滑らかで、内容もこちらの興味を誘い出すような技術を持った語りであった。それから二日考え、実質は五分くらいであるが自分の意志で入部を決めた。練習を見に行くと、同じ一回生も練習をしていた。言葉は悪いが、自分は「こいつらと四年間やっていくのか。」としみじみ思った。

言葉には、友達、親友、知り合いなどいろいろあるが、これからの四年間、書道を通しやっていく同輩には、「仲間」これがピッタリだと自分は思う。一つの事、書道のことであるが、同じ目的をもつ人間の集団が、仲間であると思う。ただ楽しく陽気に四年間が過ぎさるなんて思ってもいない。苦しいこと、つらいこともあるであろうが、そんあことも この仲間たちと解決していきたい。そして、卒業する時には、よい仲間であり、親友でもあるような関係を築き上げていきたい。一体四年後、自分はどんな立場の人間になっているだろう。

仲間

二年　野口　益記

今までの二十年間において、自分にとって多くの仲間がいる。

その仲間においての性格は、話しにユーモアがあり、いつも明るく振る舞っている人、また、考え方がいつもかたく意思を変えない頑固な人、几帳面な人、おとなしい人、その外に様々な性格を持った仲間を自分は見てきた。中でも自分の好きな性格は、やはりユーモアがあり明るい人が好きである。

小学校、中学校、高校で知り合った友達は今でもどこかに遊びに行ったり、飲みにいったりする。そこでの昔の懐かしい話しなど様々なことが思いだされ楽しいものだ。そんな時、仲間は多ければ多いほどいいものだと感じる。

しかし、その反面ほんの些細なことで口喧嘩などして話さなくなりそうになった友達もいるが、自分がそういうことを後々ずっと考える性格なので、自分から謝ってしまうほうである。でも、友達と仲良くなればなるほど相手の欠点が見えてくるので、喧嘩などするのは仕方がないことだと思う。　そこで、今現在大学において、書道部の仲間が一番のウエイトを占めている。書道部の仲間は今までとは違った感覚の仲間である。それは、各個人様々な考えをもっており、ある程度は人間ができているからである。その人達とうまく溶け込んでいくのは、自分にとって大変困難なことであったが、今は大変うまくいって充実していると思う。それでもやはり、人間関係は難しいものだとつくづく考えてしまう。

これからも、人生の中で様々な人と出会うと思う。そこで出会った仲間輩・後輩に対して最高の宝だと考えている。仲間は、裏切りと友情の背中合わせである。

書道部の先輩と同輩の友達

一年　立石　泰寛

福大に入学したとき、まさか自分が書道部に入るとは夢にも思わなかった。同じクラスで友達になった熊本M高出身の栃原君におすすめのサークルがあると言われて連れて来られたのが書道部であった。初めは話を適当に聞いてさっさと帰ろうと思っていた。僕に書道部について説明をして下さったのは、山本先輩であった。山本先輩はいかに書道部がおもしろい部であるかをだいぶ現実とは違う点も多かったが説明して下さった。ここらへんで自分がはまっていることに気付くべきであった。山本先輩の説明が終わり僕が席を立とうとした時、僕の肩を押さえながら、右隣りの席へ座られた方がいた。それは幹事の大倉先輩であった。あたりを見回すといろいろな先輩が回りを囲んで立っていた。そして笑いながら寄って来られた佐々木先輩が目の前に一枚の紙を差し出した。それは入部届であった。NOとは言えないこの雰囲気に飲み込まれてしまって僕を生けにえにしようとした栃原君と一緒に入部をした。

今日入部をして約2ヵ月が過ぎた。その間一休の歌がお上手な安武先輩に出会えた。

もちろん同輩にも人間性が濃い溝部君や、露出狂の河原君などおもしろくて見てて飽きない同輩の友達もできた。書道部に入って本当に良かったと思う。

仲間

四年　川波　久美子

春季合宿の時、討論で「仲間と友達の違い」という議題があったけど、そんなに区別をする必要があるのかなと思います。

でも現実的に誰も「この人は仲間」で「この人は友達」という区別をする人なんていないと思います。仲間とか友達とかいうのは、自分の中で相手を位置づける、ただの言葉だと思います。

確かに言葉のニュアンス的には「仲間」というと大勢で団結していてまとまりがある様な感じがするし「友達」というとそんなに親しくない人でも友達の範囲に入ってしまう。皆さん周知の事とは思いますが、この場合

でもどちらがより親しく一人一人と長く付き合っていけるかというと、友達の方かな、という気がしませんか。

人間というのは、無意識のうちに、相手方にレッテルをはってしまうというのを聞いたことがあります。友達という言葉は、もっとも頻繁に用いる相手方の位置づけではないでしょうか。

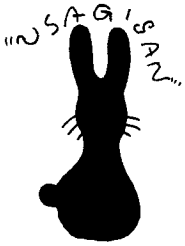
大学生活の四年間で、書道部に入って、たくさんの先輩同輩後輩に出会えたことは、自分にとって一番よかったことではないかと思います。もう残りも少ないけど卒業するときに「四年間ありがとう」と心から言えそうなきがします。

仲間

一年　山本　浩司

僕が入部したのは四月一四日。勧誘週間の終わりの方だった。弓道と書道どちらか先に勧誘された方に入部しようとブラブラと歩いていたら佐々木先輩に連れていってもらって亀元先輩にいろいろ話を聞いてその場で入部届を書いた。初めての土地で知り合いもいなかったので早く部に入って友達を作ろうと思っていた。入部して最初に会話をしたのはT君だった。ノリの軽いやつでよくマイナーなギャグを言うヤツだ。勧誘週間の最終日の飲み会でとんでもないヤツに出会った。それがM君とT君だった。こんなヤツがいたのかと思うほどパワフルなことをしていた。それから僕にとって心強かったのは愛媛県出身者が他に三人もいたことだ。そして、今まで一五年間書道を続けてきて初めて大きなスランプにかかって字を書くことも筆を持つことさえいやになったときもあった。真剣に悩んで不眠症にかかり、泣きながら相談にのってもらったこともあった。また風邪をひいたときは見舞いに来てもらったりして心強く思うと同時に仲間というもののありがたさを痛感した。

これからもこの仲間達と福大書道部が発展していくように協力していこうと思う荒鷲の原稿依頼日の前日だった。今、午前二時六分二十秒、二十一秒…。おっとM君から電話がかかってきた。どうせまた女の話だろう。ではここで…。



「自分の考える理想のなかま」

二年　森山　清二

皆さん周知の事とは思いますが、この場合のなかまとは「仲間」と書くものであって、「中間」と書いて、ある都市の名称を示すのではありません。念のため。

それはさておき、仲間を辞書で引いてみると「一緒に何かをする人の集まり」と書いてあります。辞書らしい意味とは言えますが、仲間とはこれだけのことなのでしょうか。

ここで、身近な例として、サークルにおける仲間について考えてみようと思います。サークルというものは、ある同じ目的をもった人の集団であり、これが仲間といえないでもないのですが、ただ集団で何かをするわけではなく、そこには、人と人とのふれ合い、色々な意味でのつながりというものが密接に関係してきます。この様な人間同志のふれ合いというものを根底として、様々な活動を行っていくのがサークルであり、仲間というものだと思います。

次に、理想の仲間というものを考えたいと思います。自分が思うには、気兼ねすることなく、自分自身をさらけだせる集団だと思います。さらに自分の言葉で言い換えさせてもらえば、自分以上でも以下でもなしに、最も自分らしく付き合っていける人達ということだと思います。

理想的な仲間と出会うのは難しい事だと思いますが、それ以上に大事なのは、この理想に向かって努力できる力だと思います。もっと自分らしくがんばっていきたいですね。

＜輝く時＞

輝く時

一年　北川　敬三

僕は、今まで輝いていた時はなかったような気がする。高校の時も部活を途中でやめ、はじめは“あ～自由になったぞ”と思い、これで一日が有意義に使えると思った。でも、学校から帰る時みんなが声を出して、一生懸命部活に励んでいるのを見ていると、自分が何か青春の時からはぐれたようで、とても寂しい気がした。

そして、勉強はというと、部活をしている人より余裕はあるのに結局は、その人達のほうが時間をうまく使って　能率のいい勉強をしていたような気がする。

そうして、大学生になったが、またそんな生活をおくりそうでこわいような気がする。でも、これからは考え直してまず、学生の基本である勉強と大学生の特権である自由な時間を大切に使いたい。その自由な時間を大切に使うために何か目標を見つけようと思う。それは、今はなかなか見つかりそうにないがまず納得のいく一日一日を過ごしていきたい。

おわり

輝く時

二年　吉田　啓子

私の自分で考える「輝く時」とは、やはり自分の好きな事をやっている時だと思います。

何故なら、嫌な事を進んで、喜んでやろうとはあまり思いませんが、好きな事であればそれを行う前から心が踊り？それまでが非常に待ち遠しく、勿論それを行っている時はとても楽しく、それを行った後は寂しさはありますが、それ以上の充実感があるからです。

今まで自分が輝いていたのは何時だったか？と思い返すと、やはり中、高とテニスをしていた時が一番輝いていたのではないかと思います。テニスが好きで放課後は勿論、昼休みも皆でネットを張って練習したものでした。

最近は、よく考えると自分が輝いている時というのは思いつかず、なんとなくタラタラと月日を過ごしている様に感じるので、何か「コレヲヤロウ」というものを決めて実行し輝きたい!!と思う次第であります。

まぁたとえ私が輝いたとしても、○回生のY先輩の蒲鉾の形をした、しかも黒々と濡れた様に光る瞳とはとても比べものにならないだろうなぁと思いますケド……。

（Y2先輩スミマセンデシタ。でも本当の事だと思われますので、怒らないで下さいネ。

輝く時

三年　細川　文子

私が輝いている時は、語学というものに何らかの形で接している時ではないかと思います。中学、高校では英語に、大学ではフランス語という風に・・・いつもこの単語はフランス語ではどういう単語なのかなと思いながら辞書をめくったり、何気なく辞書をパラパラと眺めたり、私の趣味の一つになっています。

英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語などの言語を比較しながら勉強することによって、これらの言語の共通性というのが見えてきます。それと同時に、日本語の難しさを改めて感じることができます。英語やフランス語は、一千語から二千語、単語を習得すれば、八十％ぐらい会話は成り立ちますが、日本語は、一万語ぐらいでやっと九十％の会話が成り立つと言われています。

私は、いろいろな言語とこういう形で接していますが、これらの言語を習得しているわけではありません。私の夢は、長い時間をかけて、ヨーロッパの言語をいくつか習得するということです。その夢がかなうまで、私は輝いていられるかもしれません。

輝く時

二年　鶴田　恵子

”輝く時“という題を聞いて私は迷った。いったい自分はどんな時に輝いているのだろう・・。これといって特別な趣味を持たないし・・。

私は小学生の時から書道に親しんできました。といってもちゃんと家で練習したり、毎週かかさず通ってたというわけではなく結構適当だったような気がします。そのせいか、大学の書道部に入ってからの週三回、約二時間ずつの練習は私にとってきつそうに思えました。けれど案外そういう“苦”というものはなかったので自分自身とても以外でした。もちろん、スランプの時期なんかは書くことが嫌になるくらいでしたけど。

ここまで適当にしろ書道を続けられたのは書技の向上という一応の目標を自分で持っていたからだと思います。ドライブやピクニックなど楽しい時は当然輝いています。けれどそれと同じ様に、書道にうち込んでいる時や作品を作り上げた時の疲労感というのは、結局は自分が輝いている時だと感じました。

「最高の時間」

四年　山下　泰史

輝いてた時、やっぱり役員をやっていた時かな、とても楽しかったし充実していた。輝毫大会を成功させた時などは本当に完全燃焼できたと思う。しかし最初は挫折の連続だった。何をやってもうまくいかず失敗ばかりで結構悩んだ時期もあった。前から先輩に「役員は楽しいぞ」とか言われていたので、そんな気持ちには一向になれず本当におもしろくなく、悲観的な考えばかりもって真面目にやっている奴に反発ばかりしていた。今考えるとあの頃は他の役員に迷惑をかけたと思う。そんな時思ったのが自分はそんなに頭がいいわけでなく器用に物事をこなす方でもなかったので、ただがむしゃらに真面目に取りくんで行こうこのままじゃもったいないと考えその後は、何事にもただ全力で取り組んだ。その結果一つ一つ自分でも少しづつ納得がいくものが出来たし、調子のいいもので今じゃ後輩にも「役員は楽しいぞ」と言っている。

確かに何かを成功させようと全力で向かって行く時多くの問題や挫折にぶち当たりそれを乗り越えるのに多くのものを犠牲にする。しかしそのような犠牲の代償を払ってもあまりあるものをこの一年で得れたと思う。

本当に役員をやった一年は色々な苦しみや悲しみがあったがそんなこともすべて喜びや楽しさに変えられる幸せなキラキラと輝く一年間だった。

輝く海原の射手

二年　山本　哲治

初夏を感じさせる今日このごろ。投げ釣り（サーフ）の絶好のターゲットはキス。パールピンクに輝く美しい魚体もさることながらあのスマートなスタイル、俊敏な動き、プルルンとした心地よい当たりがなんといってもたまらない。アフリカには、その昔ダイヤモンドが落ちている海岸があったというが、釣り人にとってキスは、まさに、海の宝石のようだ。六月のある日曜日、誰よりも早くと思い日の昇る前に志摩半島へ車で向かった。到着するとそこは静かでただ心地良い波の音だけが聞こえてくる。そしていてもたってもいられなくなりロッドを片手に砂浜に立った。沖のポイントも、潮目も、あそこも、ここも広い砂浜と目の前に広がる海は、すべて、自分の射程距離だ。ロッドを構えフルスウィング。全身がうなる。この瞬間、人間とロッドのパワーが頂点に達する。超遠投！快感・・・。「一五〇Mは飛んだ。」飛ばし屋だけが味わえる優越感、これがなんといってもキス釣りの魅力だ。手に持ったロッドを通し海底からのさまざまなメッセージが手元に届く。キスからのブルルンとした魚心がボクを歓喜させる。この有意義な一日に終わりを告げる夕陽を目の前に、疲れを忘れたボクは、再び海原の射手の如くフルスウィングする。その時ボクは夕陽と一体化し輝くのである。

＜信・正・美＞
テーマは〝美〟

三年　小田　桂子

O氏は困っている。原稿用紙を前に、何やら、考え込んでいる様子。どうやら、原稿の執筆を依頼されたらしい。（ふーん、テーマが決まらないらしいな。おやっ？締切日が明日の日付だよ。まったく、いつもギリギリなんだから・・・）急に立ち上がるO氏。台所へ行く。歯をみがく。玄関のカギを確認する。目覚し時計を合わせる。電気を消す。それから・・・ZZZ。（とうとう寝ちゃったよ。ホントに間に合うのかしら・・・心配だなぁ）

リンリン、リンリン、カチャ　O氏がむっくりと起きだす。そして、再び・・・ZZZ。（また寝たりして、遅刻しても知らないよ）

リンリン、リンリン―再びベルの音。（やれやれ、やっと起きだしたな。お！原稿に気づいたようだ。ホント、苦労したよ）

原稿を手に、首をかしげるO氏。目をこすりまた見て。原稿が出来上っている。どれどれ。

〝美〟について考えていた
ふっと　何かがあらわれた
あの日の　空だった
あの場所から　あの頃みた　あの空
地球は丸いと　初めて思った　あの空
最近、空を見ていない
懐かしさと淋しさと失くしそうな若さが
小さなくしゃみを　ひとつした

原稿を読み終えたO氏が、ふとつぶやいた。

「誰よ、書いたの。へんなの!!」　おわり

信・正・美

一年　溝部　裕之

一、信について

「己を信じよ、信じるものは救われる。」という言葉をよく耳にする。（？）　私は今までに何度か救われた。まあ、信＝可能性と私は思う。

二、正について

正＝まじめ。まるでアンポンタン＝川中のような図式になってしまった。（川中御免!!）しかし、正ばかりでは世の中はこわくて渡っていけない。当然正があれば誤もあるわけだ。誤＝悪も時には必要だ。正⇔誤。これで人間としての必要十分条件＝同値が成り立つ。ちなみに私は正＜誤である。

三、美について

美＝ビューティフル・ワンダフル。私は美しいもの・美しい風景・美しい絵・美しい音楽、そして美しい女を見たとき感動しない人間は、アンポンタン＝川中（御免）だと思う。特に私は美しい音楽を聞いたとき、背すじがゾクゾクし、さらにそれ以上のものを聞いたとき、一すじの涙が私のほおに…。スケベ＝ミゾベでも、私は美という感性に敏感である。これを書いている今、私は音楽を聞いている。やはり、感動＝美がある。背すじがゾクゾクしている。風邪気味かもしれない。

終り

信・正・美……？

二年　中江　覚行

今日は6月28日、梅雨をあまり感じさせない晴れ晴れとした空が広がる今日このごろである。思えば荒鷲の原稿依頼を受けておよそ2ヵ月が過ぎようとしている。そう、明日は原稿の締切日なのだ。おそらく部員の約、75％（推定）は、僕と同じ状況におかれているだろう。そう思うと妙に嬉しくなるのではあるがもし明日提出しなかった場合。日頃女神様の様にいつも微笑んでおられる亀元先輩のきつ〜いお説教（先輩どうもすみません）に僕のガラスの様なハートは粉々に砕けてしまいそうなので試験勉強以上に全身全霊に力をこめて原稿用紙と格闘するのである。

まあ、前置きはこれくらいにして本題に入ろう。「信」とは字の通り信じる、疑わない、という意味を持つ。他人から信用されるということは口で言うのはた易いがなかなか難しいものである。一人でも多くの人から信じら

れる人間になりたいものだ。「正」、正しい事を行うという事は信用される人間になる為に当然実行されなければならない事であり、僕も常日頃から正しい事をしようと心がけているのである。余談だが、投票の開票作業に「正」の文字を使って数を記録する方法を最初に考えついた人は、めちゃえらいと思う。「美」…思いつかないからパス！。正しい事をすれば人から信用されそのうち美しい女性と出会える。少し強引ではあるがこれを結論としよう。

わたしの美学

三年　亀元　美奈子

いい女になるために色々と勉強すべきことがある。　今の世の中女が強くなっただのといろいろいわれているが、どうだろう。本来人間なんて生き物は、男も女も大人も子供も弱いものである。　誰かと一緒にいたい誰かに認められたいと自分の存在を自分以外の誰かに知って欲しいと思うもの。　私もこの類いに漏れていない。それゆえに弱みを見せたくない、見せれない自分の弱さ・・・。だからこそ心がけたいこと。　人からしてもらったことは、どんな些細なことでも忘れず感謝の念を持ち続けたい。ともすれば自分の欲にとらわれ周りを見ることができなくなるかもしれないが。　今現在の自分があるのは周りにいろんな人がいてくれたから。自分がこうして生活できるのも、周りの人たちのおかげ。　楽しかったり、悔しかったり、うれしかったり、悲しかったり、いろんな感情を有することができるのもいろんな人たちに出会ったから。数え切れないほどの手助けをしてもらったから。　共に喜び、怒り、泣き、こうして何かを共有できることが、なにかを感じることがとても大切なもののように思われる。　「自分はひとりで」「人がなんといおうと構わない」なんて意気がってもだめなんですよね。心のどこかで目に見えない周りの力に威圧されているようです。

自分を偽らず、もっと素直になりたい。

心から笑顔でいたい。

みんなもそうあるべきなんですよ。

そうすることが自然で美しいことだから・・。

信・美・善

一年　太田　美和

私の場合、ほとんどの人と違ってテーマが決まっていたので何を書けば良いのか戸惑った。で、とりあえず「信・美・善」を選び、それぞれの字を辞典で引いてみることにした。

信は形声文字で人＋口＋辛から成り、辛は刑罰の意味がある。発言に嘘があれば受刑することから、まことの意味を表す。

美は会意文字で羊＋大から成り、大きくて立派な羊の意味から、うまい、美しいの意味を表す。

善は会意文字で語＋羊から成り、語は原告と被告の発言の意味で、羊を神へのいけにえとし、両者がよい結論を求めることから、よいの意味を表す。

字典で引いてみて字のつくりを知り、又、これらの字の普段何げなく使っている意味の根源を改めて気付かされた。美という字が案外簡単に作られていたり、信・善といった字が考えていた以上に作られ方が複雑であったりした。字というものは奥深いものであると思った。そして又、会意文字とか形成文字といった小・中学校で習った言葉が出てきて懐かしく感じた。（こんな風に考えたりするのは私一人かもしれないが。）

これらの言葉の意味を心に留めて、その他いろいろな面で自分を磨いていきたい。そして自分に自信を持てるようになりたいと思う。

痩せ我慢の美学

四年　牧　利弥

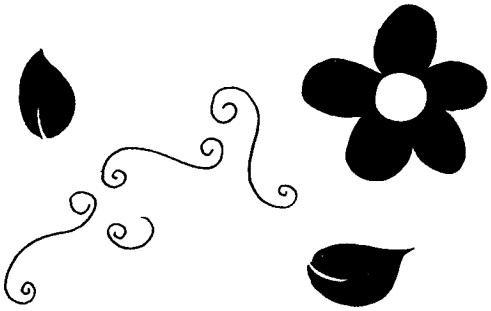
痩せ我慢とは通常「むりに我慢して、平気な顔をしてみせること」という意味で、どちらかというといいイメージでとられることは少ない。無理に我慢する必要はないし、そんな体に悪いことはするなと言われても仕方ありません。

しかし、私はこの痩せ我慢という言葉が好きで、どんなに小さな痩せ我慢の中にも、プライドと根性が入っているように思われるからです。

武士のことわざの中には「武士は食わねど高楊枝」「武士に二言なし」など、まさしく痩せ我慢と思われるものがたくさんあります。どんな心境の中でも「武士たる者は…」と威厳を保とうとする意識がそうさせるのでしょう。そんな毅然とした態度には心打たれるものがあります。又、別のことわざで「武士の命は義によりて軽し」というのがあり、武士は信義を守るためには、自分の命などはなんとも思わないという意味です。

痩せ我慢というのは、プライドや意地によって、自分に嘘をつくような行為でありますが、そこからは、きっと新たなエネルギーが生まれて来るような気がします。

小さくて、くだらない事のような気がしますが、私にとっては、次へのステップにつながる前向きな美学です。



釘嶋美佐緒さんを追悼して・・・

第三十二代幹事　大倉　隆雄

一九九三年二月五日の午後七時半頃、二回生の釘嶋美佐緒さんは、静かに息をひきとりました。まだ、二十一才という若さでした。

彼女は、二回生の十月に入部したばかりで四か月余りしか、みんなと一緒に書道部の活動をすることができなかったが、今でも彼女のやさしい笑顔が目に浮かんできます。入部の動機は、書道が好きだったからであり、書道部での活動のすべてが、彼女にとっては初めてのことばかりだったが、何事にもまじめに、一生懸命に取り組んでいた姿が思い出されます。みんなよりも遅れて入ったにもかかわらず、彼女の努力の成果で七隈祭の展示には米黻を一つの作品に書き上げ、西日本高等学校揮毫大会では、自分の仕事に責任をもってやり通しました。

今回の彼女の突然の死というものは、人の命の尊さ、はかなさ等、色々なことを教えてくれました。だからこそ、一日一日を大切にして精一杯生きなければならないと改めて、考えさせられた気がします。

これからは、私達一人一人の心の中で笑顔を絶やすことなく彼女は生き続けていくと思います。

最後に彼女のご冥福をお祈りします。

美佐緒さんありがとう。

がる前向きな美学です。

＜年間行事＞

クリスマスパーティー

二年　松元　恵美

一九九一年十二月二十二日、クリスマスパーティーが行われた。このクリスマスパーティーはホテルの一室で行われるので、全員正装である。勿論、いつもとは違う不思議なというか異様な空気が流れていた。各自プレゼントを持ち、会費（というほど大げさじゃないけど）を払って、百人一首のカードを受け取った。

部員が続々と集まり、シャンペンで乾杯。決してビールではないのがクリパである。料理が運ばれて来ると、全員テーブルに集まり、食べ始めた。どんな格好をしていても、やはり書道部であると思った。

イントロクイズが始まり、場は盛り上がって、マイクの争奪戦が始まった。一番活躍されたのは、予想通りＹ先輩だった。しかし、Ｙ・Ｎ先輩の活躍で私の班は優勝して、賞品を頂いた。だが、肝心のＹ・Ｎ先輩は賞品を手にされていない。「先輩、どうされたんですか」と聞いてみると、どうも班を間違えられていたようだった。とすると、私達の優勝は？と思ったが、せっかく頂いたんだし……と思って、あえて何も言わないことにした。

テーブルの料理もなくなり、プレゼントの交換が始まった。百人一首が読まれ、そのカードを持っている人が受け取った。なかなか風流ではないかと思った。

ベストドレッサー賞の発表があり、四回生の堂脇さんと原口さんが選ばれた。原口さんは本当にかわいかった。勿論、堂脇さんもスレンダーなボディを生かして、とてもかっこよかった。

慣れない雰囲気の中にいたせいか、帰るときには、ちょっと疲れていた。でもなかなか楽しかった。たまには、こういうのもいいなあと思った。

追い出しコンパ

三年　中村　友理子

今年も追い出しコンパは、いつも通り、昼の部と夜の部に分かれてありました。私は両方に参加することができ、昼の部は薬院の城山スポーツガーデンにて、ボーリング大会でした。各班ごとに分かれてボーリングを競い合い、団体賞や個人賞を目指して、みんな燃えていました。又ここのボーリング場はスコアが珍しく手書きだった。夜の部は、高砂であった。卒業される先輩方が一人ずつ、今までの学生生活そして書道部で過ごされてきた時の思い出や感想を話されていくうちに、私は、自分が書道部に入部したときの事や、合宿・七限際等、その他のいろいろな行事において、大変お世話になったんだなという思いが次第に高まって、感謝の気持ちでいっぱいになり、又御迷惑もたくさんかけただろうなと思いました。そして、次に二次会が天狗という居酒屋さんであった。酔っている人もあんまり酔っていない人もいる中、たくさんの人が参加していた。そして卒業される先輩方を囲んでみんな楽しそうに話をしていたのが印象的だった。中には　酔いすぎて、ずっと眠っていた先輩もいたようだった。

でもやっぱり追い出しコンパは、今まで一緒にいた先輩方と、なかなか会えなくなるんだなと思うと、寂しくなりますが卒業される先輩方、社会人になられても、がんばって下さい。応援してます。

春季合宿

四年　川波　久美子

今年の春季合宿は、四月四日から、七日まで、佐世保青年の天地で行われました。私達新四回生にとっては、最後の春季合宿です。そろそろ就職が気になりだした今日この頃の四回生にとっては、ちょっとひと休みの期間でもあり、四回生だしとの甘え（？）から、気楽に参加しようと思っていました。

さて、春季合宿といえば、「討論」です。私の班の班長さんは、新二回生のWくん、初めての春季合宿で班長さんというのは、とても不安だっただろうけど、新三回生のKちゃんの手助けもあって、とてもよくがんばっていたと思います。ご苦労様。

そして、春季合宿のもう一つの目玉（？）といえば、レクレーション。バスケはともかく、バレーボールを本当に四時間もするなんて……。バレー大好きな私は、嬉しかったけど、さすがに最後の○○別対抗のときは、自分のところにボールが来てほしくなかったです。でもそういうときに限って、ボールはくるからレシーブしなくちゃならないし、サーブはよく入るしで、合宿終ってから、二、三日してからも手が痛かったので、このときばかりは、当分バレーボールはしない、と心に堅く誓ってしまいました。

それから、無事に合宿が終って、帰る途中のバスの中、私はぐっすり眠っていました。隣に座った同輩のFくんもぐっすりでした。そこにマイクをもった企画のKくんが、Fくんを歌わせるために起こしにやってきました。「先輩つきました。起きて下さい。」の一言で私も起きて、外を見たところ、そこはまだ唐津のあたり……　そうK君は、嘘をついて、起こしに来たのでした。一回目が覚めたら、パッチリと目が冴えてしまいもう眠れなくなってしまいました。そこで私は打上げでお礼しようと決意したけれどその日は忘れてしまったのでいつか必ずお礼をしてあげるのでKくん楽しみにしていてね。

『新入生歓迎コンパ』

一年　溝部　裕之

（第一章〜ハ・ダ・カ〜）

朝十一時!?ゲ〜。

私はあせりを隠しきれなかった。もう昼の部が始まっている。どうしよう…などと思いながらも、髪の毛だけはセットしようということで、なんと三十分もかけて寝ぐせを直し、ビシッときめた。そして、グラウンドについたのは十一時四十分過ぎ!!みんなは、ドッヂボールにもえていた。ここで私の身にとんでもないことが起こった。N先輩が「お前は上半身ハ・ダ・カ。」と言われた。ガッチョ〜ン。この暑い中結局ハ・ダ・カでゲームを楽しんだ。（ちなみに十日後、肩から背中にかけて、皮がむけてしまったのは言うまでもないが、私は言いたいのでこの場を借りてぜひ言わせてもらいたい。〝いて〜よ〜!!〟）そんでもって最悪なことに、最優秀選手賞は古瀬大周？がもっていくという『トホホ』な結末になった。

（第二章〜カ・ラ・ミ〜）

私の一番楽しみにしていた夜の部。まあ、今回は自粛ということで、酒の方も減らしてあり、「ラッキー!!今日は絶対カラオケまで行くぞ!!」と冷静さを装いながらも、心の中ではワクワクしていた。一次会が終わり、二次会へ。この段階でもうすでにセク○ラTが女にカ・ラ・ミ攻撃をしかけていた。私も負けずにがんばった。私はナイトフィーバーが好きで好きでたまらない。しかし、カ・ラ・ミ過ぎは危険ということを知らされたのは言うまでもないが、私は是非言わせてもらいたい。「ケチケチするなよ!?」（M・H先輩&N・T先輩御免なさい。）

（第三章〜教訓〜）

一、時間厳守（第一章より）

一、カラんだら素直に御免（第二章より）

一、カラまれたらカラミかえせ（今までの人生より）

以上。

学内展

一年　植本　豊

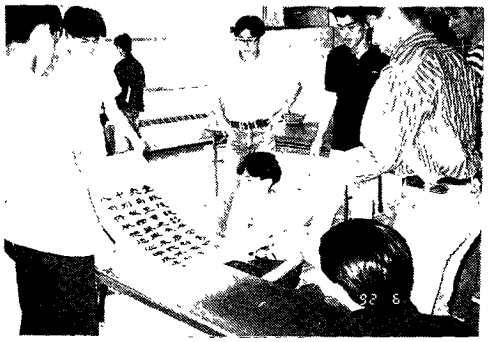
六月二十二日から六月二十七日まで、学術文化部会発表週間があり、我々書道部では、有朋会館において学内展が行われた。

五月の初めから二週間にわたって、強化練習があり、作品作りをした。僕達一年生は、書道部に入部して初めての作品作りをした。僕は、なかなか作品が出来なくて、強化練習が終っても、まだ、練習をして、最後の最後まで作品が出来なくて、とても苦労した。強化練習後、一週間、表装週間があり、先輩の作品や同輩の作品を表装した。自分以外の作品を表装するのは、失敗したらいけないと思って、とても緊張してしまい、あまり上手に出来なかった。そして、六月二十日、学内展の会場の準備が行われた。初めての事で、どのようにしたらよいか分からない事がたくさんあって、少し戸惑いぎみだったけれど、次回の為にはとても勉強になった。

そして、六月二十二日から一週間にわたって、学内展が行われた。一、二年生は、受付があった。観客について回る時、先輩の作品について質問されて、どのように答えたらよいのか分からず、二年生の先輩に助けてもらったりして、どうにか答えたりした。また、観客の来ない時は、その時で、とてもとても暇でたまらなかった。

そして、二十六日には、赤木先生に、作品を批評していただいたり、また、最終日には、批評会が行われたが、先輩の作品について、どのように批評したらいいのか分からず、それから、作品一つ一つの特徴も全く分からず、教えていただいたりして、勉強になったが、もっと勉強して、分かるようになりたい。

この学内展は、僕にとって、とてもいい勉強にもなったし、とてもすばらしいものだったと思いました。



夏季合宿を終えて

二年　野口　益記

今回、自分自身二回目にあたる夏季合宿が八月二十七日から三十一日までの、四泊五日で宮地岳神社で行われた。今回、自分は、班長という重要な役を行った。

まず、事前ミーティングにおいては、少し緊張してしまい、うまく班員に、こういう様な班にするということを伝えることができなかった。

とうとう、当日である八月二十七日がやってきた。海運殿において、練習の方が始まり自分自身、緊張の連続であった。練習が終われば終りで、指示等を出さなくてはいけなく班員に、通じていなかった。夜の二年の反省会においても、他の班員の班長に、「どうやった。」と聞いても「うまく一日過ごせなか

もっと勉強して、分かるようになりたい。

った。」などという答えが返ってきた。
二日目も、ほぼ一日中練習であった。練習中は、いつも周りを見ていた。しかし、練習が終わってからの指示が、またまた初日同等同じ結果に終わり、その他の面でも同じ結果であった。夜の反省会で、他の班長と、いろいろ話した結果、もう一度、一つ一つ確実に確認しながらやっていこうと考えた。
三日目以降から、やっと全体を見ることができ、指示も通るようになり、皆も動いてくれるようになり、少しの自信がついた。練習以外の行動面においても、それぞれ個人が、自覚したみたいで、自分の指示なしで、動いてくれるようになってくれた。
何はともあれ、充実ある四泊五日過ごせて大変満足であった。それとともに、班長をやって本当に、いい経験になったと思った。今後も、この経験を生かして、学内の方でも頑張りたいと思った。
話しは変わるけど、一番つらかったのは、やはり食事における、『ぶどううつし』を写真にとられたのは、大変大変つらい。またまた、変な写真を残してしまった。

七隈祭を終えてしみじみ思うこと

一年　山本　浩司

十月三十日から十一月三日まで盛大に七隈祭が行われた。僕は実行委員を任され、また、市中バの仮装の作業場として部屋を提供したのが地獄の一ヵ月の始まりであった。彼女もいないのにきれいだった部屋は、布きれ・ダンボール・紙くず・散乱した絵の具など目を覆いたくなるほど汚れてしまった。そして、いつも午後十時になると僕のクレスタ号で女子を送り、帰ってみるとあの汚い部屋が僕を迎えてくれる…。会話がはずんで作業が中断したり、突然ファッションショーを始めたりしてなかなか進まなくて…。僕自身も少し無理が重なって市中バの当日倒れてしまって楽しみにしてた?市中バに参加できず、くやしい思いをしている今日このごろである。バザーの方も最初ゴタゴタがあったけど先輩方やK君の強引な客引きのおかげ?もあった十万円以上の売り上げを出せて本当によかった。展示の方もバラエティーにとんでいてよかったという意見を多数聞くことができ、成功といえるのではないかと思う。
本当は一回生をまとめなければならなかったのに、逆にみんなに助けられて七隈祭も無事終わった。一回生のみんなに感謝している。本当に「ありがとう。」二・三回生の先輩方もいろいろなアドバイスをありがとうございました。
最後しめっぽくなったけど、なんだかんだいって僕はあの一ヵ月を青春の一ページに書き留めて忘れることはないだろう。うわぁーべらべらとクサイ言葉を並べてしまった。なんて僕は詩人なんだろう。
追伸、今でも部屋を訪れるT君は「ただいま」とまるで我が家に帰ってきたようにやってくる。そして部屋の主の僕よりもみんなの方がどこに何があるかを知っているという奇妙な状況が今でも続いている…。

西日本高等学校揮毫大会

一年　松元　祐二

一回生として初めて経験した今年の第三十二回西日本高等学校揮毫大会は、日程が七隈祭と連続した形となったせいもあってか、肉体的にも精神的にも疲れがたまり、当日を迎

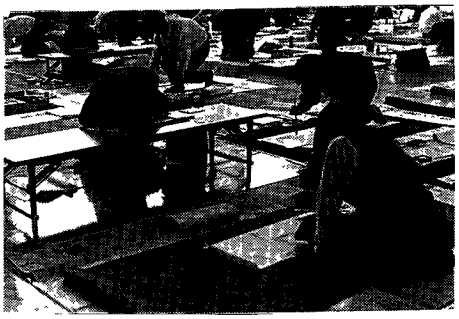
えるまでかなり苛立っていた。実際、「揮毫大会なんかどうでもいい」が本音だった。

そういう心境で迎えた当日、受付に座り、高校生を迎えた。この日のために何度も目を通した応対の仕方を書いたプリントもいざ実践となると、全然役に立たなかった。しかしそうした自分の欠陥だらけの応対に、高校生がきちんと聞いてくれたことが唯一の救いであったし、そうした姿を見て、次第に気持が和んだのは確かだった。

そして一階監修へ役職が変わった。この役職は直に高校生と接することができる、数少ないものだけあって、大会中最もやり甲斐のあった仕事だった。また、この仕事をしていくうちに揮毫大会前日までの嫌悪感は払拭われた。というのも、直に高校生が作品づくりに励んでいる姿を見ることができたし、用件取り次ぐ時にそうした高校生とコミュニケーションを図ることができたからだ。むしろ、書道に対しての高校生の真摯な態度を自分自身見習い、そしてそうした高校生を大切にしてあげたい、と思ったぐらいだった。

審査を経て、閉会式を迎えた。その時の自分は時間も下がっていたせいか、半分〝死にかけ〟状態だった。その状態で耳に入った福岡西陵高のあの歓声は忘れることはできない。自分たちが苦労して開いたこの大会における賞にあれほど喜んでくれたのだから、とても印象的だった。

こうした多くの喜び、感動をこの大会を通じて高校生に与えたい、これをこれから揮毫大会を開く時の自分のモットーとしたい。



第三十二回西日本高等学校揮毫大会

三年　佐々木　智子

去る十一月八日（日）に第一記念会堂で、「第三十二回西日本高等学校揮毫大会」を開催した。今年は特に七隈祭を挟んでリハーサルが行われたこともあり、一年生は戸惑ったと思う。でも、三百六十五日あるカレンダーの中から、この日を選んだ舞台裏は壮絶なものだった。この大会を一人でも多くの高校生に呼びかける事によって大会を知ってもらいたい。そして、この大会に参加することによって高校生に何かを感じとってほしい。色々な願いをこの日に賭けた。今年は幸いにも三十二校二一五名の高校生が参加したが、この一つの大会を行うまでの高校生の意気込み、生徒と共に一生懸命になられた先生、毎年後援して下さる後援団体、もちろんこの大会を成功させようとした私達福大書道部の気持ちというものを忘れないでほしい。この大会の主催は福岡大学学術文化部会書道部である事を大会が終わった今、もう一度考え直し、これからも高校生の書道文化の普及と書技向上の為に私達に何ができるか、何をやっていくか創意工夫していかねばならない。この大会は我が部の最大行事であり、伝統行事であるが、部員一人一人の大会に対する思いや書道に対する誇りが失われた時、この大会が最大行事である意味もなくなる。部員用アンケートを自主的に出す人が少ない今、これが部の現状なのかと悲しい気持ちになるが、母校を回ってくれた一年生や大会当日ステージの電気室のカギを一生懸命探して下さった四年生、細かい準備をした二年生、常に相手の立場に立つ三年生、今までの経験を教えて下さった先輩の事を考えると嬉しくなる。

あなたはこの大会を通してどんな喜怒哀楽

がありましたか？
高校生はこの大会を毎年楽しみにしている。これからもたくさんの高校生が参加してくれる大会になるように一緒にがんばりましょう。

秋季学生部長杯争奪球技大会

四年　牧　利弥

十一月二十三日、秋季学生部長杯争奪球技大会が行なわれました。僕にとって最後の球技大会です。

結果は、女子のバレーボールは初戦で負けてしまい、男子のソフトボールも三回戦まで進んだものの最後はサヨナラ負けで、男女共に悔しい負け方をしてしまいました。しかし、三回戦でのファインプレーなどが評価され、特別賞をいただくことができました。何とも悔しいけれどもすがすがしく、又、うれしい球技大会でした。

僕にとって球技大会は入部動機の一つでもあり、たくさんのことがありました。中でも、強烈に覚えているのが、初めての練習の時のことです。遊びと思っていたのに、不思議と真剣な雰囲気があるのです。そしてノックになると汚れることもおかまいなしにダイビング。まさか大学で、しかも書道部でこんなものを見ることができようとは夢にも思いませんでした。その印象は強烈で、なぜかそんなことからも書道部を好きになったような気がします。

僕は、一年の春、二年の秋と二回の準優勝を経験することができました。今度こそは優勝をと気力十分で臨んだこの大会、僕の成績はたった一本のヒットとたくさんのエラーにパスボール、頭に描いた華麗なダイビングキャッチも失敗に終わり、あらためてひどい成績だったと感じています。

試合に負けて、もちろん悔しいのですが、なぜか満足感がありました。きっと精いっぱいやった結果だからでしょう。みんなたくさん声も出ていたし、だらしないプレイなんて一つもなかったし、僕自身勝ちにつながるようなプレイはできなかったけど、皆の中で自分らしく精いっぱいやれた事、こんなに気持ちいいとは思いませんでした。優勝できなくても気持ちよく卒業できそうです。

「福岡市教育委員会賞」に入賞して

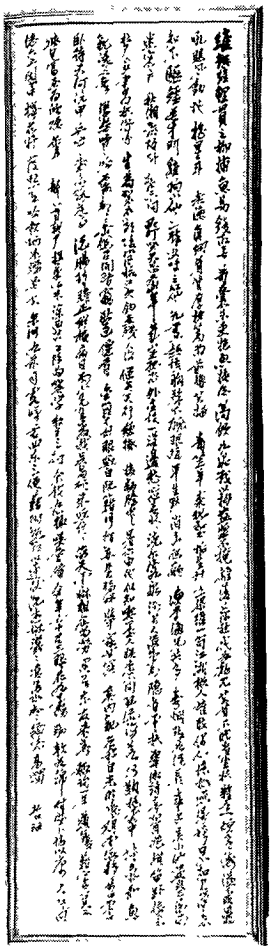
二年　山本　哲治

県展を目指す有志十二名が、七月二十九日から三十一日まで行われる県展合宿のためここ油山の正覚寺に集いました。この合宿には、自由練習、三食ほか弁、福岡市内の夜景を一望できるという特典があり、下界から離れた気分が味わえる変わった合宿です。

今回、僕は市展入選に続いて県展入選をと思い参加した。初日は得意な張瑞図を書いたのですが、その夜赤木先生に「張瑞図は駄目だ、呉昌硯にしなさい。」と言われ、僕は落胆しました。翌日は暑さに負け、大濠の花火大会を見ていたので殆ど練習しませんでした。しかし、このままでは県展入選の目標を果たせないと心攻め、みんなが寝沈んだ午前一時から一人書き始めました。そうして、五時の正覚寺の鐘の音と同時に一枚の作品が出来上がり、いつのまにか毛氈の上で僕は熟睡しているのでした。最終日、赤木先生にその作品を見て頂くと「これなら、出品しても良い。」と言われいちかばちか思い切って出品することにしました。

県展の発表は、それから一ヵ月後の八月三十一日でちょうど夏季合宿の最中でした。朝、セブンイレブンに行き新聞をめくると「福岡市教育委員会賞　山本哲治（城南区）」という活字が目に入り喜びと感動のあまりジャージ姿のまま休を震わせている僕でした。

九月二十六日の表彰式にも出席し賞状と金一封、さらには祝賀パーティで超豪勢な料理を腹一杯食べることができました。このパーティで年輩の方といろいろな話ができ、一層書道に対する意欲がわいてきました。今後も新たに県展入賞という目標をかかげ日々精進していくつもりです。



「一年間を振り返って」

我々、第三十二代役員は、女子役員二人を含めた三年生三人、二年生四人という二つの学年にわたって構成されており、書技の向上・親睦融和・書道文化の普及といった目的のもと、この構成を生かして、役員と部員が多く接し、部員の意見もなるべく多く反映させて一年間の行事を運営して参りました。

学年や男女の違いのために、多くの意見のくい違いによる衝突、数々の失敗もありましたが、成功した時の喜びも数知れずあり、ひとつひとつの行事に思い出があります。また部員一人一人にも一年間の活動を通じて、積極性・自主性といったものが身につき、サークルとしての意義も浸透したものと確信しております。

部を運営していく上で、部員一人一人が、色々な経験をし、勉強することができ、七人それぞれが大きくなったと思います。これらの経験を生かして、我々三十二代役員は、残された学生生活を、次の代に引き継ぎ、四人は後輩の指導、また、三人は次の代の役員として再び部を運営し、自分自身を飛躍させ、部を発展させるため努力していく所存であります。

最後になりましたが、一年間、多くの方々の暖かい御支援、並びに御指導・御鞭撻を頂き誠に有り難うございました。

第三十二代役員一同

福岡大学学術文化部会書道部

《規約》

第一章　名称及び目的

第一条　本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条　本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条　本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

一、書道に関する事業

一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行

一、関係団体との親睦ならびに連絡提携

一、各種展示会出品

一、その他前条目的達成のため必要と認めた事業

第二章　組織

第四条　本部は講師及び部長を各一置く。

第五条　本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条　本部は次の機関を置く。

一、役員会

一、部員総会

一、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章　役員会

第七条　役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条　本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認めた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条　本会は幹事によって招集され代表される。

第十条　本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条　本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章　部員総会

第十二条　本会は本部の最高議決機関である。

第十三条　本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条　本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条　本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。

第十六条　

一、本部会は部員の過半数をもって成立する。

一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条　本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって仮議決することができる。但し、

一、仮議決については事後部員総会において過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章　役員

第十八条　役員構成は第五条に同じ。

第十九条　第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条　幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条　本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。

第二十二条　本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条　役員改選は原則として十月に行なう。

第六章　役員の職務

第二十四条　役員の職務は次の通りである。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行なう。但し、機関誌の発行は年一回とする。

一、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章　会計

第二十五条　本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条　本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならない。

第二十七条　会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告を作成し、これを報告する。

第八章　部員の権利義務

第二十八条　本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部における選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条　本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

第九章　入部、退部

第三十条　本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入をもって部員とする。本部の退部は書面をもって幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納すること。

第十章　罰則

第三十二条　書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ヵ月以上怠った者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届出者についてはこの限りではない。

第十一章　規約改正

第三十三条　本部規約改正の発議は部員総会において部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十二章　附則

附一、　本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書心会
《規約》

第一章　総則

第一条　本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条　本会は事務局（本部）を福岡大学書道部内に置く。

第三条　本会は支部を置くことができる。

第二章　目的及び事業

第四条　本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない、もって書道に貢献する事を目的とする。

第五条　本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。
一、書道の振興に関する事業
一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
一、各種展示会出品
一、その他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章　組織

第六条　本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者をもって構成する。但し強制するものではない。

第七条　本会に総会、評議委員会、および事務局を置く。

第四章　役員

第八条　本会は次の各号の役員を置く。
一、会長（一名）
一、副会長（若干名）
一、評議委員長（一名）
一、副評議委員長（三名）
一、評議委員（原則として各代一名とする）
一、事務局長（一名）
一、事務局次長（一名）
一、事務局委員（若干名）
一、会計監査委員（一名）

第五章　役員の職務

第九条　本会の役員は次の職務を行なう。
一、会長は本会を統括し、且つこれを代表する。
一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
一、評議委員長は、評議委員会を統括し、かつこれを代表する。
一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。
一、評議委員は本会の運営、重要事項の審議および決議にあたる。
一、事務局長は、事務局を統括し、且つこれを代表する。
一、事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故ある時は、その職務を代行する。
一、事務局員は、本会の企画、立案にあたる。
一、会計監査委員は、本会の会計監査にあたる。

第十条　役員の任期は二年間とし、定例総会において選考するものとする。

第六章　総会

第十一条　総会は本会の最高決議機関である。

第十二条　書心会総会は会員をもって構成する。

第十三条　本会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを招集する。
一、定例総会（年一回）
一、会長が特に必要と認めた場合
一、評議委員会が必要と認めた場合

第十四条　本会総会は出席会員をもって成立する。

第十五条　本会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議長がこれを決定する。

第十六条　本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章　評議委員会

第十七条　本会の審議および決議機関として本委員会を置く。

第十八条　評議委員会は評議委員、事務局長、および事務局次長をもって。

第十九条　構成する。
評議委員会は次の各号の場合、評議委員長がこれを招集する。
一、会長が必要と認めた場合
一、評議委員長が必要と認めた場合

第二十条　評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十一条　評議委員会議長は評議委員長がこれにあたる。

第八章　事務局、会計

第二十二条　本会の執行機関として、本事務局を置く。

第二十三条　事務局内に事務室を置き、書道部役員より、事務室長を選任する。

第二十四条　本会の会計年度は毎年一月一日より始まり、十二月三十一日に終わる。

第二十五条　本会会費は総会において決定する。

第二十六条　会計は監査を受け、総会においてその年度の会計報告を行なう。

第二十七条　会員は本会運営費用として毎年三月三十一日までに会費納入の義務を負う。

第九章　入会及び退会

第二十八条　入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。

第二十九条　本会をやむをえぬ事情の為、退会する場合は書面をもってすみやかに申し出ること。

第三十条　本会を退会し、再入会の申し出があった場合、評議委員会の承認を得たものについて入会を認めることがある。

第三十一条　本会で本会の名誉を毀損し、また会員としての体面を汚し、もしくは不都合な行為があった場合、総会の決議により退会を命ず。

第三十二条　二年間会費を滞納したものにおいては退会を命ず。

第十章　規約改正

第三十三条　本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない

第十一章　附則

第三十四条　本規約は、昭和五十九年一月十六日から執行する。

ボウリング

レストラン

アイススケート

バッティングセンター

ゴルフ

文化サークル
七隈ファミリープラザ
〒814-01 福岡市城南区七隈8丁目4番8号(福大横)　TEL(861)5555
姉妹センター　梅光園バッティングセンター　TEL (731)2791

和漢文房舗

硯山

福岡店
福岡市中央区天神３丁目３番１４号
ＴＥＬ（０９２）７２１－１６４４

久留米店
久留米市通東町３－１６
ＴＥＬ（０９４２）３４－３４０１

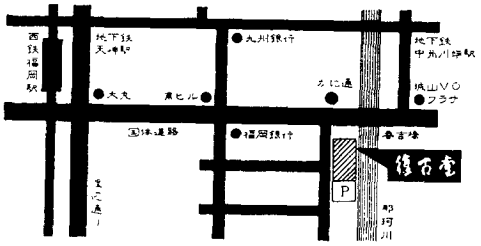
●アトリエメニュー
書画用筆墨硯紙・香
色紙・短冊・料紙
和文具・書籍
額・表装・貸額
赤ちゃん筆、御用命承ります

書道用品と表装

アメミヤ　福岡店

はかた書廊　併設

〒８１２　福岡市博多区博多駅中央街２番１号
福岡交通センター３Ｆ
☎／０９２（４５１）２１２７(代)



―― 駐車場完備 ――
大丸デパートより徒歩5分

電話予約・お問い合せ092-761-5122(代)

SINSE　1501・室町文亀元年創業

平助筆　復古堂

〒810 福岡市中央区春吉３－３－９
ＴＥＬ　０９２－７６１－５１２２(代)
ＦＡＸ　０９２－７６１－８３６７

美術表装・ギャラリー
BANKO－DO

晩香堂

○当店は１００年以上の伝統をもつ美術表装の専門店です
○お気に入りの額に合う絵をご自分の目でえんでいただけます
○営業時間：AM10：00～9：00

〒810 福岡市中央区大濠１丁目3-5（福岡気象台ヨコ）
☎（０９２）７４１－０８９７　P アリ

不動産のトータルプランナー

大地不動産㈱

福大前バスのりば近く

福岡市城南区片江５丁目１０－１４

●お問い合せは
☎０９２－８６３－０５１４

土地・建物・マンション
売買・仲介

有限会社 不動産の
高田住宅

☎：８０１－６０５２

貸家・アパート・店舗・下宿
賃貸借

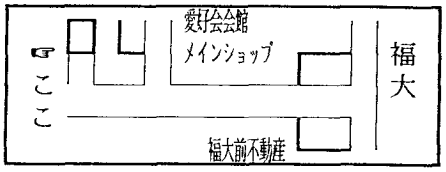
福大ＯＢの店
やすくおいしく
サービス満点

もつ鍋
もり田

七隈四つ角バス停前
福岡市城南区七隈４丁目８－１７
☎８７３－１０７３

各種コンパ受付中！

おふくろの味
お持ち帰り寿司・弁当・丼物
花すし弁当



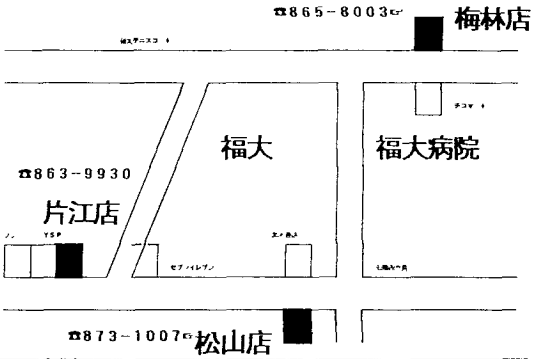
愛好会会館北側
☎：０９２－８６４－５３４８

煙草・牛乳・菓子・その他
福大前メインショップ

福岡市城南区片江５丁目４５－１５

☎８６１－１５７７

あのアメリカンに
学生専門パブが!!



アメリカン　梅林店　１７：００開店

天神サザン通り

PALS

福岡市中央区天神2-6-32　ＴＥＬ092-761-3939

トータルインテリアのプロフェッショナル
ＧＳグループ
ＧＳクロス
ＧＳフロアカバーリング
ＧＳガーデン

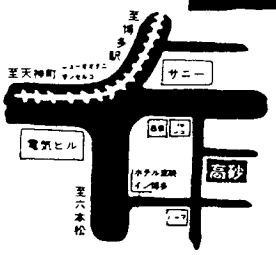
株式会社 GS タカハシ

福岡市中央区天神2-10-10
ＴＥＬ　福岡　７４１－３２３１
７８１－７１７０

JAPANESE TASTE
" FULLA"
SOPUTHERN STREET
TENNJIN PALS 3F
0927154600

福岡市中央区天神２丁目６－２３
天神サザン通りパルス
ＴＥＬ（０９２）７１５－４６００

高砂



〒810 福岡市中央区高砂1丁目4-14　TEL(531)3500・0140

株式会社NPC商会

TOTAL GIFT STATION

本　社：
〒812　福岡市博多区博多駅南１丁目9-11
電話　092(431)6161㈹　ＦＡＸ092(411)4212
熊本営業所：
〒860　熊本市紺屋町２丁目４５
電話　096(355)0095　ＦＡＸ096(354)4487

まごころ100パーセント！
有限会社 七隈不動産
福岡市城南区片江５丁目１－45－110
（城南市民センター前）
ＴＥＬ (092) 801－7790(代)
ＦＡＸ (092) 865－3279

編集後記

第三十三号荒鷲が何とか無事に発行できそうです。今回の荒鷲は、自由投稿とテーマ原稿とにわけてはいますが、部員の普段見えない考えなどを覗くことができたのではないでしょうか。

また年間行事を振り返りながら、それぞれが過ごした一年間を素敵な思い出として、もう一度心の中に呼び起こしていただければ、幸いです。そして、卒業した後も「懐かしいなあ」なんて言いながら、頁を開いて欲しいものです。

最後になりましたが、本号「荒鷲」の発刊にあたりまして、ご協力頂きました関係者各位の方々に部員一同感謝すると共に、厚く御礼申し上げます。

亀元　美奈子
森山　清二

「荒鷲」
第三十二号
福岡大学学術文化部会書道部機関誌
平成五年三月　発刊
発刊責任者　大倉　隆雄
編集責任者　亀元　美奈子
発刊　福岡大学学術文化部会書道部
〒八一四－〇一
福岡市城南区七隈八－一九－一
電話　八七一－〇四七二
印刷所　㈲いづみプリンティング